



インストール・ガイド

IBM Rational DOORS

Rational DOORS インストール・ガイド

リリース 9.2

Rational DOORS

Rational DOORS インテグレーション製品

この情報をご使用になる前に、123 ページの『特記事項』に記載されている情報を必ずお読みください。

本書は、**IBM Rational DOORS バージョン 9.2**、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：IBM Rational DOORS
Rational DOORS Installation Guide
Release 9.2
Rational DOORS
Rational DOORS Integration Products

発行：日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：トランスレーション・サービス・センター
第1刷 2010.5

© Copyright IBM Corporation 1993, 2010

目次

第 1 章 : はじめに	1
第 2 章 : 概要	3
IBM Rational DOORS の概要	3
Rational DOORS インストールの種類	5
ライセンス・オプション	6
インストール・オプション	7
第 3 章 : Windows への Rational DOORS の新規インストール	9
Rational DOORS データベース・サーバーのインストール	9
Rational DOORS クライアントのインストール	12
Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface のインストール	15
Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface クライアント	16
Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface サーバー	18
自動インストール	21
Rational DOORS の起動	22
空のデータ・フォルダーを指すインストールの場合	22
既存の Rational DOORS のデータを使用したインストールの場合	23
Rational DOORS データベースである RDS および UUID	23
tds_valid_id.txt	23
tds_registered.txt	23
Rational DOORS サンプル・データのインストール	24
Rational DOORS のアンインストール	25
第 4 章 : バージョン 9.0 以降からのアップグレード	27
9.0 および 9.1 から Rational DOORS 9.2 にアップグレードするユーザー向けの情報	27
データの移行	27
ライセンス	27
バージョン 9.0 と Rational DOORS 9.2 間の互換性	28
バージョン 9.1 と Rational DOORS 9.2 間の互換性	28

アップグレードおよびインテグレーション.....	28
Rational DOORS へのデータの移行 9.2.....	29
Rational DOORS のインストール.....	30
インストールの確認.....	30
空のデータ・フォルダーを指すインストールの場合.....	30
既存の v9 のデータを使用したインストールの場合.....	31
第 5 章：バージョン 5、6、7、または 8 からのアップグレード	33
移行のパス.....	33
バージョン 5 からの移行.....	33
バージョン 6、7、または 8 からの移行.....	34
バージョン 7 または 8 からのアップグレード.....	34
前のバージョンからのデータの移行.....	36
ライセンスの変更.....	37
アップグレードおよびインテグレーション.....	38
フェーズでの設定.....	38
新規インストール・オプション.....	39
データのアップグレードおよび移行.....	39
Rational DOORS へのデータの移行 9.2.....	40
Rational DOORS のインストール.....	41
第 6 章：Citrix での Rational DOORS のインストールと使用	43
サポートされるプラットフォーム.....	43
インストールの指針.....	43
環境仕様.....	44
外部リンクの設定.....	44
第 7 章：UNIX 上での Rational DOORS サーバーのインストール	47
UNIX 上でのインストールとは？.....	47
Rational DOORS データベース・サーバーのインストール.....	47

第 8 章 : Windows への Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスのインストール	53
概要	53
インターフェース・サービスのコンポーネント	54
インターフェース・サービスのコンポーネントのインストール	55
Rational DOORS データベース・サーバーのインストール	55
Interoperation Server のインストール	56
インターフェース・サービスのサーバーおよびインターフェース・サービスのブローカーのインストール	56
コンポーネントの設定	56
データベースの Universal Resource Name を特定します。	57
インターフェース・サービス・サーバーの設定	57
festival.xml の例	58
Rational DOORS データベース・サーバーの設定	60
複数の Interoperation Server の実行	62
システムの起動	62
インターフェース・サービスの構成	63
インターフェース・サービス・サーバーのポートの構成	63
インターフェース・サービス・ブローカーのポートの構成	64
HTTPS の構成	65
Redirector Service の構成	66
情報セキュリティに関する注意	67
システムのシャット・ダウン	68
同じマシンでのインターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access の実行	68
インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット	69
コンポーネントの起動と停止	69
インターフェース・サービスのアンインストール	71

第 9 章 : Solaris への Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスのインストール 73

概要.....	73
インターフェース・サービスのコンポーネント.....	74
Rational DOORS データベース・サーバーのインストール.....	75
Interoperation Server のインストール.....	76
インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーのインストール.....	78
システムの起動.....	79
システムのシャット・ダウン.....	80
同じマシンでのインターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access の実行 ..	81
インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット ..	81
コンポーネントの起動と停止 ..	82
インターフェース・サービスのアンインストール.....	83

第 10 章 : Linux への Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスのインストール 85

概要.....	85
インターフェース・サービスのコンポーネント.....	86
Rational DOORS データベース・サーバーのインストール.....	87
Interoperation Server のインストール.....	88
インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーのインストール.....	90
システムの起動.....	91
システムのシャット・ダウン.....	92
同じマシンでのインターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access の実行 ..	93
インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット ..	93
コンポーネントの起動と停止 ..	94
インターフェース・サービスのアンインストール.....	95

第 11 章 : Rational DOORS for HP Quality Center Interface のインストール 97

インストール・オプションについて	97
旧バージョンの Integration からのアップグレード	97
バージョン 1.8 からのアップグレード	98
バージョン 3.0 からのアップグレード	98
バージョン 3.1 からのアップグレード	98
バージョン 3.2 および 3.3 からのアップグレード	99
Integration Server のインストール	99
インストーラーの実行	99
Configuration Tool の実行	101
Integration Client のインストール	103
Administration Console のインストール	104
バージョン 3.1 データのアップグレード	106
Integration のアンインストール	106

第 12 章 : Windows 上での Rational DOORS for ClearCase Interface のインストール 107

Rational DOORS for ClearCase Interface のインストール	107
Rational DOORS for ClearCase Interface のアンインストール	108

第 13 章 : Windows 上での Rational DOORS for ClearQuest Interface のインストール 109

Rational DOORS for ClearQuest Interface のインストール	109
Rational DOORS for ClearQuest Interface のアンインストール	110

第 14 章 : Windows マシンへの Rational DOORS for Rational Rose Interface のインストール 111

Rational DOORS for Rational Rose Interface のインストール	111
Rational DOORS for Rational Rose Interface のアンインストール	112

第 15 章 : Windows への Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager のインストール	113
Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface のインストール	113
ライセンスの設定	114
Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface のアンインストール	114
第 16 章 : トラブルシューティング	115
管理者権限のないユーザーとしての Rational DOORS のインストール	115
ソフトウェアのインストールに関する問題	116
Word に Rational DOORS へのエクスポート・アイコンが表示されない場合	117
Rational DOORS API の使用	117
表示色	117
Solaris の DISPLAY 変数	117
すべての UNIX インストール上の DISPLAY 変数	118
デュアル・ブート・マシン	118
第 17 章 : サポートへのお問い合わせ	119
IBM Rational ソフトウェア・サポートへのお問い合わせ	119
前提条件	119
問題の処理依頼	120
その他の情報	122
第 18 章 : 特記事項	123
商標	125

1

はじめに

IBM® Rational® DOORS® 製品ファミリーをお買い上げいただきありがとうございます。この製品は、ユーザー要件を取り込み、検証し、管理する機能を備えた強力なツールです。

このドキュメントでは、お買い上げいただいた Rational DOORS 製品のインストールおよび設定について説明します。

内容	参照先
Rational DOORS の新機能	Rational DOORS README ファイル
Rational DOORS のライセンスの設定方法	<i>Rational License Server TL</i> ライセンス・ガイド
Rational DOORS の使用方法	<i>Rational DOORS 入門</i> <i>Rational DOORS の使用</i>
Rational DOORS 統合製品の使用方法	<i>Rational DOORS for ClearCase Interface</i> の使用法 <i>Rational DOORS for ClearQuest Interface</i> の使用法 <i>Rational DOORS for HP Quality Center Interface</i> の使用法 <i>Rational DOORS for Rational Rose Interface</i> の使用法 <i>Rational DOORS for Serena Version Manager Interface</i> の使用法
Rational DOORS の設定および管理方法	<i>Rational DOORS の管理</i>
要件の記述方法	要件管理の手引き
DXL プログラミング言語	「DXL Reference Manual」(英文)
Rational DOORS を他のアプリケーションと統合する方法	<i>Rational DOORS API Manual</i>

これらの資料は、Rational インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp>) にあります。

2

概要

- IBM Rational DOORS の概要
- Rational DOORS インストールの種類
- ライセンス・オプション
- インストール・オプション

IBM Rational DOORS の概要

Rational DOORS 製品ファミリーは、企業がプロジェクトを、概念フェーズから完了までを通じて、効率的に管理できるように設計された要件管理ツールのパッケージです。

Rational DOORS ファミリーの製品を導入することで、組織内のすべてのメンバーが要件管理プロセスに関与し、貢献することができます。

製品名	説明
IBM Rational DOORS	Rational DOORS はファミリーの中心となるアプリケーションで、Windows® および UNIX® システムで稼動します。Rational DOORS は独自のビルトイン・データベースを備えており、要件の取得および管理で役に立つ多くの機能が用意されています。
IBM Rational DOORS Web Access	Rational DOORS Web Access は Web クライアントです。これを使用して、Rational DOORS データベースのモジュールにアクセスすることができます。

製品名	説明
IBM® Rational® DOORS® Analyst Add On	<p>Rational DOORS Analyst Add On は、Rational DOORS で使用可能なモデリング環境です。Rational DOORS Analyst Add On を使用すると、ユーザーは、標準化されたビジュアル・モデリング言語である UML 2.0 に基づいてダイアグラム、シンボル、絵などを使用して、要件を補足し、視覚化できます。UML 2.0 は Rational DOORS モジュールに直接挿入されます。</p> <p>Rational DOORS Analyst Add On は、Rational DOORS で、すでに使用可能な各種機能を拡張したものです。Rational DOORS Analyst Add On の強力で、簡単に習得できるビジュアル・モデリング機能により、要件を自由な表現で定義できます。Rational DOORS Analyst Add On は、絵、ダイアグラム、およびモデルを使用して要件記述を簡単に補強するので、要件を明快で理解しやすいものにできます。</p>
IBM® Rational® DOORS® for ClearCase® Interface	<p>Rational DOORS for ClearCase Interface は Rational DOORS の統合製品のひとつです。Rational DOORS ClearCase® の間でのデータ転送を可能にし、これによって設定管理レジユメを同期させ、Rational DOORS で管理される情報と ClearCase で管理されるバージョンの追跡を可能にします。</p>
IBM® Rational® DOORS® for ClearQuest® Interface	<p>Rational DOORS for ClearQuest Interface は Rational DOORS 統合製品のひとつです。Rational DOORS と ClearQuest® の間でのデータ転送を可能にします。ClearQuest Integration は、ライフ・サイクル全体を通して CR を追跡し、要件やテストなどの実施によって影響を受ける Rational DOORS の成果物に関する状況情報を提供します。</p>
IBM® Rational® DOORS® for HP Quality Center Interface	<p>Rational DOORS for HP Quality Center Interface は Rational DOORS 統合製品のひとつです。Rational DOORS と Quality Center の間でのデータ転送により、テスト・プロセスにトレーサビリティを追加できます。</p>

製品名	説明
IBM® Rational® DOORS® for Rational Quality Manager® Interface	Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface は Rational DOORS 統合製品のひとつです。Rational DOORS と Rational Quality Manager® の間でのデータ転送により、テスト・プロセスでの追跡を可能にします。
IBM® Rational® DOORS® for Rational Rose® Interface	Rational DOORS for Rational Rose Interface は Rational DOORS の統合製品のひとつです。Rational DOORS と Rational Rose® の間でのデータ転送により、ソフトウェア設計プロセスでの追跡を可能にします。
IBM® Rational® DOORS v for Serena PVCS Version Manager Interface	Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface は Rational DOORS の統合製品のひとつです。この製品では、Rational DOORS と Serena PVCS Version Manager の間でデータを転送できます。Version Manager は、要件から構成管理まで、ライフ・サイクル全体を通してのトレーサビリティが可能になります。

Rational DOORS インストールの種類

Rational DOORS のインストールには、次の3つの種類があります。

セットアップの種類	説明
Rational DOORS クライアント	Rational DOORS クライアント・アプリケーション・ファイルをローカル・マシンにインストールします。クライアントは、ローカル・マシンのデータベースとネットワーク接続されたマシンの両方にアクセスできます。 インストールの途中で、Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface をインストールできます。 ライセンスは、ローカル・アクセスまたはリモート・アクセスに対して設定できます。

セットアップの種類	説明
Rational DOORS サーバー	<p>Rational DOORS データベース・サーバーをローカル・マシンにインストールします。</p> <p>インストールの途中で、Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスをインストールできます。</p> <p>ライセンスは、ローカル・アクセスまたはリモート・アクセスに対して設定できます。</p>
Rational DOORS サンプルデータ	<p>Rational DOORS サンプル・データベースをローカル・マシンにインストールします。</p> <p>ユーザーは、本番データへのアクセスや、ローカルな Rational DOORS データベース・サーバーのインストールを行わずに、Rational DOORS に慣れることができます。</p>

ライセンス・オプション

Rational OORS のいずれの製品を使用する場合も、ソフトウェア・ライセンスまたはハードウェア・ライセンスが必要です。

Rational DOORS 8.2 または Rational DOORS 8.3 が稼働していて有効な保守契約を結んでいる場合以外は、Rational DOORS 9.2 の新しいソフトウェア・ライセンスを要求する必要があります。Rational DOORS 8.1 以前のバージョンのソフトウェア・ライセンスは、Rational DOORS 9.2 と互換性がありません。

Rational DOORS では、Rainbow ドングルをサポートしていません。Rational DOORS の起動に Rainbow ドングルを使用していたお客様は、お近くのサポート・センターまでお問い合わせください。他の既存のハードウェア・ライセンスはそのまま使用できます。

ライセンスの詳細については、**Rational Lifecycle Solutions DVD** から、および弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な「Rational License Server TL ライセンス・ガイド」を参照してください。

インストール・オプション

次の表は、本書で対象としている Rational DOORS のさまざまなインストール・オプションを示しています。

Rational DOORS 9.2 のインストール先マシン	参照先
以前のバージョンの Rational DOORS がインストールされていない Windows マシンの場合	9 ページの『Windows への Rational DOORS の新規インストール』
バージョン 5、6、7、8 のいずれかの Rational DOORS が現在実行されている Windows マシンの場合	33 ページの『バージョン 5、6、7、または 8 からのアップグレード』
Rational DOORS 9.0 または 9.1 が現在実行されている Windows マシンの場合	27 ページの『バージョン 9.0 以降からのアップグレード』
UNIX マシン	47 ページの『UNIX 上での Rational DOORS サーバーのインストール』
Citrix マシン	43 ページの『Citrix での Rational DOORS のインストールと使用』

3

Windows への Rational DOORS の新規インストール

この章では、旧バージョンの Rational DOORS がインストールされていないマシンへ Rational DOORS 9.2 をインストールし、設定する方法を説明します。現在のバージョンの Rational DOORS をアップグレードする場合は、27 ページの『バージョン 9.0 以降からのアップグレード』または 33 ページの『バージョン 5、6、7、または 8 からのアップグレード』の指示に従ってください。

この章では、次の内容について説明します。

- Rational DOORS データベース・サーバーのインストール
- Rational DOORS クライアントのインストール
- Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface のインストール
- 自動インストール
- Rational DOORS の起動
- Rational DOORS データベースである RDS および UUID
- Rational DOORS サンプル・データのインストール
- Rational DOORS のアンインストール

Rational DOORS データベース・サーバーのインストール

Rational DOORS データベース・サーバーをインストールするには、次の手順に従います。

注 Rational DOORS クライアントと Rational DOORS データベース・サーバーを同じマシンにインストールする場合は、最初に Rational DOORS クライアントをインストールします。Rational DOORS データベース・サーバーと Rational DOORS クライアントはコンポーネントを共有しています。クライアントより先にサーバーをインストールする場合は、クライアントをインストールしている間に、マシンを再起動する必要があります。クライアントのインストールについては、12 ページの『Rational DOORS クライアントのインストール』を参照してください。Rational DOORS クライアン

トがインストールされたら、以下の手順で Rational DOORS データベース・サーバーをインストールします。

1. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://www-01.ibm.com/software/awdtools/doors/sysreqs/> を参照してください。
2. ご使用のシステムに IBM® Rational® License Server TL がインストールされていることを確認してください。Rational License Server TL のインストールについては、**Rational Lifecycle Solutions DVD** から、および弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な「*Rational License Server TL ライセンス・ガイド*」を参照してください。
3. 管理者権限を持つユーザーとしてではなく、ローカルの管理者としてログオンしていることを確認します。
4. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。特に、Microsoft Office ツールバーも含め、Microsoft Office® アプリケーションのシャットダウンを忘れないでください。
5. インストールは、Rational Solutions DVD、または Rational の Web サイトからダウンロードした Rational DOORS ソフトウェアから行えます。

DVD からインストールする場合には、**Rational Lifecycle Solutions DVD** を DVD-ROM ドライブに挿入し、Rational DOORS サーバー・ソフトウェアを参照して、インストールするためにクリックします。Rational DOORS データベース・サーバーのインストーラーが起動し、「ようこそ」画面が表示されます。

Rational DOORS データベース・サーバー・ソフトウェアを Web サイトからダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルまで移動してダブルクリックします。Rational DOORS データベース・サーバーのインストーラーが起動し、「ようこそ」画面が表示されます。

6. 「次へ」をクリックします。
「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。
7. ライセンス合意の諸条件を受け入れる場合は、「合意 (I accept...)」を選択して「次へ」をクリックします。
ご使用のマシンに Rational DOORS クライアントがインストールされていない場合は、「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面

が表示されます。Rational DOORS クライアントがインストールされている場合は、「**セットアップの種類 (Setup Type)**」画面が表示されます。ステップ 9 に進みます。

8. Rational DOORS のインストールに使用するフォルダーへのパスを入力するか、デフォルトのまま使用します。

ディレクトリーを変更する場合は、次の手順で行います。

- a. 「**変更**」ボタンをクリックします。
- b. インストールするディレクトリーを参照してください。
- c. 「**OK**」をクリックします。

「**セットアップの種類 (Setup Type)**」画面が表示されます。

9. セットアップの種類として、「**カスタム (Custom)**」または「**標準 (Typical)**」のいずれかを選択し、「**次へ**」をクリックします。

セットアップの種類が「**カスタム (Custom)**」の場合、Rational DOORS データベース・サーバーおよび Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスがインストールされます。これによって Rational DOORS は、Rational Requirements Composer などその他の一部の製品とインターフェースを取ることができます。セットアップの種類「**カスタム (Custom)**」の使用方法については、53 ページの『Windows への Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスのインストール』を参照してください。

注 他の製品と統合するこの方式は、Rational DOORS for ClearCase Interface、Rational DOORS for ClearQuest Interface などの統合には使用されません。これらの統合のインストールについては、本書の適切な章を参照してください。

セットアップの種類が「**標準 (Typical)**」の場合、Rational DOORS データベース・サーバーがインストールされます。

「**DOORS Database Server の設定 (DOORS Database Server Settings)**」画面が表示されます。

10. ポート番号とデータ・ディレクトリーを入力します。
 - a. 「**ポート番号**」に、Rational DOORS データベース・サーバーが使用するポート番号を入力します。1000 未満の数値は使用しないでください。Rational DOORS が使用するデフォルトのポート番号は 36677 です。

b. 「データ・ディレクトリー」で、Rational DOORS データベースで使用するディレクトリへのパスを入力します。このディレクトリーは、ローカル・マシン上にある必要があります。この場所には、データとユーザー情報が格納されます。Rational DOORS ではデータに対してマッピングされたドライブをサポートしていません。

c. 「次へ」をクリックします。

注 指定したポートが別のアプリケーションで既に使用されている場合は、メッセージが表示されます。「OK」をクリックして別のポート番号を入力し、「次へ」をクリックします。

「プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。

これまでに定義した設定内容が表示されます。設定を変更する場合は、「戻る」ボタンをクリックします。

11. 「インストール」をクリックします。

12. すべてのファイルがインストールされると、「完了」画面が表示されます。「完了」をクリックしてインストールを終了します。

Rational DOORS クライアントのインストール

Rational DOORS クライアントと Rational DOORS データベース・サーバーを同じマシンにインストールする場合は、最初に Rational DOORS クライアントをインストールします。

1. Rational DOORS 9.2 のライセンスがあることを確認します。ライセンスの詳細については、**Rational Lifecycle Solutions DVD** から、および弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な「Rational License Server TL ライセンス・ガイド」を参照してください。
2. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://www-01.ibm.com/software/awdtools/doors/sysreqs/> を参照してください。
3. ご使用のシステムに Rational License Server TL がインストールされていることを確認してください。Rational License Server TL のインストールについて詳しくは、「Rational License Server TL ライセンス・ガイド」を参照してください。

4. 管理者権限を持つユーザーとしてではなく、ローカルの管理者としてログオンしていることを確認します。

ご使用のコンピューターにローカル管理者としてログインできない場合は、115 ページの『管理者権限のないユーザーとしての Rational DOORS のインストール』を参照してください。

5. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。特に、Microsoft Office ツールバーも含め、Microsoft Office アプリケーションのシャットダウンを忘れないでください。
6. インストールは、Rational Solutions DVD、または Rational の Web サイトからダウンロードした Rational DOORS ソフトウェアから行えます。

DVD からインストールする場合は、次の手順で行います。

- a. **Rational Lifecycle Solutions DVD** を DVD-ROM ドライブに挿入し、「**Rational Lifecycle Solutions Clients**」を参照して、インストールするためにクリックします。

Rational Lifecycle Solutions Setup が起動し、「ようこそ」画面が表示されます。

- b. 「次へ」をクリックします。

「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。

- c. ライセンス合意の諸条件を受け入れる場合は、「合意 (I accept...)」を選択し、「次へ」をクリックします。

「製品の選択 (Select Products)」画面が表示されます。

- d. Rational DOORS のみをインストールする場合は、その他のオプションをすべて選択解除し、「次へ」をクリックします。ステップ 9 に進みます。

Rational DOORS 以外の製品のインストールの情報については、**Rational Lifecycle Solutions DVD** で入手可能な該当のインストール・マニュアルを参照してください。

Rational DOORS クライアント・ソフトウェアを Web サイトからダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルまで移動してダブルクリックします。

「ようこそ」画面が表示されます。

7. 「次へ」をクリックします。

「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。

8. ライセンス合意の諸条件を受け入れる場合は、「**合意 (I accept...)**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。
9. 「**宛先フォルダー**」画面が表示されます。

Rational DOORS のインストールに使用するフォルダーへのパスを入力するか、デフォルトのまま使用します。

デフォルトのインストール・フォルダーは
C:\Program Files\IBM\Rational\DOORS\9.2 です。

ディレクトリーを変更する場合は、次の手順で行います。

 - a. 「**変更**」ボタンをクリックします。
 - b. インストールするディレクトリーを参照してください。
 - c. 「**OK**」をクリックします。
10. 「**次へ**」をクリックします。

「**セットアップの種類 (Setup Type)**」画面が表示されます。
11. セットアップの種類として、「**カスタム (Custom)**」または「**標準 (Typical)**」のいずれかを選択します。

セットアップの種類が「**カスタム (Custom)**」の場合、Rational DOORS クライアント、Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface クライアント、および Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface サーバーがインストールされます。セットアップの種類「**カスタム (Custom)**」の使用方法については、15 ページの『Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface のインストール』を参照してください。

セットアップの種類が「**標準 (Typical)**」の場合、Rational DOORS クライアントがインストールされます。
12. 「**次へ**」をクリックします。

「**DOORS データベース設定 (DOORS database settings)**」画面が表示されます。
13. 「**データベース・ポート**」フィールドには Rational DOORS データベース・サーバーが使用しているポート番号を、「**データベース・ホスト**」フィールドには Rational DOORS データベース・サーバーのマシン名を、それぞれ入力します。
14. 「**次へ**」をクリックします。

「**ライセンス情報 (License Information)**」画面が表示されます。

15. 手元にライセンス情報がない場合は、「**ライセンス情報を後で提供します (Supply license information later)**」を選択します。

Rational DOORS ライセンスの場所がわかっている場合は、該当フィールドにその場所情報を入力します。

- ライセンス・サーバー

フローティング・ライセンスを使用している場合は、*port@host* の形式で、ライセンス・サーバーの場所を指定します。例えば、19353@licenseserver のように入力します。

- ローカル・ライセンス・ファイル

ノード・ロック・ライセンスを持っている場合は、使用しているコンピューターのフォルダーにそのライセンス・ファイルをコピーし、ファイルへのパスを入力します。

注 管理者権限のないユーザーとしてインストールする場合には、この画面にライセンス情報を入力する必要があります。

16. 「次へ」をクリックします。

「**プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)**」画面が表示されます。

これまでに定義した設定内容が表示されます。設定を変更する場合は、「戻る」ボタンをクリックします。

デスクトップ・ショートカットを作成する場合は、チェック・ボックスを選択します。

17. 「インストール」をクリックします。

18. すべてのファイルのコピーが完了すると、[**Completed**] 画面が表示されます。

Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface のインストール

Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface は、Rational DOORS クライアントのインストール操作で表示される、「**カスタム・セットアップ (Custom Setup)**」画面を使用してインストールします。「**カスタム・セットアップ (Custom Setup)**」画面を使用して、Rational DOORS クライアントおよび Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface をインストールできます。

Rational DOORS クライアントをインストールするには、12 ページの『Rational DOORS クライアントのインストール』の手順に従います。Rational DOORS クライアントを、セットアップの種類「**標準 (Typical)**」、「**カスタム (Custom)**」のどちらを使用してインストールしても、手順は同じです。

Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface は、次の 2 つの別々のコンポーネントで構成されています。

- Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface クライアント
- Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface サーバー

これらのコンポーネントのうちの 1 つまたは両方をインストールできます。選択を決定したら、「**カスタム・セットアップ (Custom Setup)**」画面の「**次へ**」をクリックすると、選択した内容が Rational DOORS クライアントと共にインストールされます。

注意 Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface のご使用のバージョンをアップグレードする場合、前のバージョンで入力したものと**正確**に同じ値を入力する必要があります。例えば、ソフトウェアの前のバージョンがインストールされたときに入力されたものと同じ番号を「**RQMI サーバー・ポート番号**」フィールドに入力する必要があります。

Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface クライアント

Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface クライアントをインストールするには

1. 12 ページの『Rational DOORS クライアントのインストール』のステップ 1 からステップ 10 に従います。
2. 「**セットアップの種類 (Setup Type)**」画面で、セットアップの種類「**カスタム (Custom)**」を選択します。
「**カスタム設定**」画面が表示されます。
3. 「**DOORS Rational Quality Manager Interface**」を選択して、「**次へ**」をクリックします。
「**DOORS Database Server の設定 (DOORS Database Server Settings)**」画面が表示されます。
4. 「**データベース・ポート**」フィールドには Rational DOORS データベース・サーバーが使用しているポート番号を、「**データベース・**

「ホスト」フィールドには Rational DOORS データベース・サーバーのマシン名をそれぞれ入力して、「次へ」をクリックします。

「Rational Quality Manager Interface」画面が表示されます。

5. Rational Quality Manager サーバーの詳細を入力します。

フィールド名	Details
RQMI サーバー・ポート番号	Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface サーバーのポート番号を入力します。
RQM サーバー	Rational Quality Manager サーバーのマシン名を入力します。

6. 「次へ」をクリックします。

「ライセンス情報 (License Information)」画面が表示されます。

7. 手元にライセンス情報がない場合は、「ライセンス情報を後で提供します (Supply license information later)」を選択します。

Rational DOORS ライセンスの場所がわかっている場合は、該当フィールドにその場所情報を入力します。

- ライセンス・サーバー

フローティング・ライセンスを使用している場合は、*port@host* の形式で、ライセンス・サーバーの場所を指定します。例えば、19353@licenseserver のように入力します。

- ローカル・ライセンス・ファイル

ノード・ロック・ライセンスを持っている場合は、使用しているコンピューターのフォルダーにそのライセンス・ファイルをコピーし、ファイルへのパスを入力します。

注 管理者権限のないユーザーとしてインストールする場合には、この画面にライセンス情報を入力する必要があります。

8. 「次へ」をクリックします。

「プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。

これまでに定義した設定内容が表示されます。設定を変更する場合は、「戻る」ボタンをクリックします。

デスクトップ・ショートカットを作成する場合は、チェック・ボックスを選択します。

9. 「インストール」をクリックします。
10. すべてのファイルのコピーが完了すると、[Completed] 画面が表示されます。

Rational DOORS クライアントがインストールされ、Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface クライアント・ファイルが ¥DOORS¥9.2¥RQMInterface¥Client¥ ディレクトリーにインストールされました。

Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface サーバー

Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface サーバーをインストールするには

1. 12 ページの『Rational DOORS クライアントのインストール』のステップ 1 からステップ 10 に従います。
2. 「セットアップの種類 (Setup Type)」画面で、セットアップの種類「カスタム (Custom)」を選択し、「次へ」をクリックします。
「カスタム・セットアップ (Custom Setup)」画面が表示され、あらかじめ「DOORS」が選択されています。
3. 「Rational Quality Manager Interface サーバー」を選択して、アイコンをクリックし、インストール・オプションを選択します。
4. 「次へ」をクリックします。
「DOORS Database Server の設定 (DOORS Database Server Settings)」画面が表示されます。
5. 「データベース・ポート」フィールドには Rational DOORS データベース・サーバーが使用しているポート番号を、「データベース・ホスト」フィールドには Rational DOORS データベース・サーバーのマシン名をそれぞれ入力して、「次へ」をクリックします。
「Rational Quality Manager Interface」画面が表示されます。

6. 以下の詳細を入力します。

フィールド名	Details
RQMI サーバー・ポート番号	Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface サーバーのポート番号を入力します。
RQM サーバー	Rational Quality Manager サーバーのマシン名を入力します。
RQM ユーザー	Rational Quality Manager ユーザーの名前を入力します。
RQM パスワード	Rational Quality Manager ユーザーのパスワードを入力します。
RQM ポート	Rational Quality Manager がインストールされているマシンのポート番号を入力します。

7. 「次へ」をクリックします。

「**Rational Quality Manager Interface DOORS User**」画面が表示されます。

8. 以下の詳細を入力します。

フィールド名	Details
DOORS ユーザー (DOORS User)	Rational DOORS ユーザーの名前を入力します。
DOORS ユーザーのパスワード (DOORS User Password)	Rational DOORS ユーザーのパスワードを入力します。

9. 「次へ」をクリックします。

「**ライセンス情報 (License Information)**」画面が表示されます。

10. 手元にライセンス情報がない場合は、「**ライセンス情報を後で提供します (Supply license information later)**」を選択します。

Rational DOORS ライセンスの場所がわかっている場合は、該当フィールドにその場所情報を入力します。

- ライセンス・サーバー

フローティング・ライセンスを使用している場合は、*port@host* の形式で、ライセンス・サーバーの場所を指定します。例えば、19353@licenseserver のように入力します。

- ローカル・ライセンス・ファイル

ノード・ロック・ライセンスを持っている場合は、使用しているコンピューターのフォルダーにそのライセンス・ファイルをコピーし、ファイルへのパスを入力します。

注 管理者権限のないユーザーとしてインストールする場合には、この画面にライセンス情報を入力する必要があります。

11. 「次へ」をクリックします。

「プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。

これまでに定義した設定内容が表示されます。設定を変更する場合は、「戻る」ボタンをクリックします。

デスクトップ・ショートカットを作成する場合は、チェック・ボックスを選択します。

12. 「インストール」をクリックします。

13. すべてのファイルのコピーが完了すると、[Completed] 画面が表示されます。

Rational DOORS クライアントがインストールされ、Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface サーバー・ファイルが ¥DOORS¥9.2¥RQMInterface¥Server¥ ディレクトリーにインストールされました。

Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface について詳しくは、そのドキュメンテーション・セットを参照してください。

自動インストール

Rational DOORS 9.2 では、自動インストールがサポートされています。つまり、同じオプションを何度も選択して最初から Rational DOORS をインストールするよりも、ユーザーによる設定を記録するインストーラーを作成して、費用も時間もより効率的にインストールを実行できます。

自動インストールを行うには、コマンド行から各製品のインストーラーを実行します。Rational DOORS データベース・サーバーの場合は、次の書式でコマンドを入力します。

```
C:\doors_server\setup.exe /s /v"/1*v" #C:\doors_server\install.log# /qn  
PORTNUMBER=#36677#  
DATABASEDIR=#C:\Program Files\IBM\Rational\DOORS\9.2\data#  
INSTALLDIR=#C:\Program Files\IBM\Rational\DOORS\9.2#
```

Rational DOORS クライアントの場合は、次の書式でコマンドを入力します。

```
setup.exe /s /v"/1*v  
#C:\doors_client\install.log# /qn  
INSTALLDIR=#C:\Program Files\IBM\Rational\DOORS#  
CLIENTDATA=#36677@server_machine#  
TLICENSESERVER=#19353@license_server#  
LAPAGREE=#Yes#
```

注 Windows Vista 上で自動インストールを実行している場合は、「ユーザー アカウント制御」が無効になっている必要があります。

Rational 製品のインストールをスクリプト化する場合は、次の順番で行う必要があります。

最初に、Rational DOORS、Rational Synergy、Rational Change、および Rational Tau を、次に、Rational DOORS Analyst Add On のスクリプト化を行い、最後にその他の製品および統合の順です。

エラーの発生時には、自動インストール・プログラムはダイアログ・ボックスを表示しません。代わりに、自動インストールの状況情報は、コマンド行から指定する「install.log」というログ・ファイル内に記録されます。このファイルには、任意のパス名を指定できます。

Rational DOORS の起動

空のデータ・フォルダーを指すインストールの場合

1. 「開始」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Rational」 > 「IBM Rational DOORS9.2」 の順にクリックします。
Rational DOORS のレポートが表示されます。
2. [OK] をクリックします。
「パスワードの変更」 ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 管理者ユーザーに使用するパスワードを、「新規パスワード」と「新規パスワードの確認」に入力します。パスワードは最低 6 文字の長さが必要です。
4. [OK] をクリックします。
注 このパスワードはメモしておいてください。パスワードを忘れた場合は、サポート・センターにお問い合わせください。
5. DOORS Explorer と、ウェルカム画面が表示されます。
6. 「閉じる」をクリックしてウェルカム画面を閉じます。
7. ユーザー・アカウントの作成
管理者アカウントは緊急時にしか使用してはならないため、新たにユーザー・アカウントを作成し、次回の Rational DOORS ログイン時に、そのアカウントを使用する必要があります。
 - a. 「ツール」 > 「ユーザーの管理」 の順にクリックします。
 - b. 「ユーザー」 タブで「新規」をクリックします。
 - c. 「ユーザー名」 ボックスにユーザー名を入力します。
 - d. 「データベース管理者」 ユーザー・タイプをクリックします。
 - e. [OK] をクリックします。
 - f. [OK] をクリックします。
8. 「ファイル」 > 「終了」をクリックして、Rational DOORS を終了します。
管理者ユーザーとしての作業が完了したら直ちにログオフします。

既存の Rational DOORS のデータを使用したインストールの場合

1. 「開始」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Rational」 > 「IBM Rational DOORS9.2」 の順にクリックします。

Rational DOORS がロードされ、Rational DOORS ログイン画面が表示されます。

2. Rational DOORS ユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。Rational DOORS ユーザー名がない場合は、Rational DOORS の管理者に連絡してください。
3. データベース・エクスプローラーが表示されます。

Rational DOORS データベースである RDS および UUID

Rational Directory Server (RDS) を使用すると、2つのファイルがデータのサブフォルダー（例えば C:\Program Files\IBM\Rational\DOORS9.2\data\）に作成されます。

- tds_valid_id.txt
- tds_registered.txt

これらのファイルは、データベースと Universally Unique Identifier (UUID) を関連付けるために使用されます。

tds_valid_id.txt

このファイルは、データベースに格納されているリポジトリ ID が、RDS から取得された有効な UUID であることを示します。このファイルがある限り、別の UUID でデータベースを登録できません。

データベースのコピーに別の UUID を付けて新規のデータベースとしてデプロイする場合、このファイルを削除する必要があります。現在の UUID を保持する場合は、このファイルを削除してはいけません。

tds_registered.txt

このファイルは、データベースに格納されているリポジトリ ID が、現在構成されている RDS で認識された有効な UUID であることを示します。このファイルがある場合、RDS レジストリーに UUID がないとデータベース・サーバーは稼動しません。

新しい RDS サーバー上で既存の UUID を使用してデータベースを再デプロイする場合、このファイルを削除する必要があります。

tds_valid_id.txt ファイルが削除されないよう注意する必要があります。

Rational DOORS サンプル・データのインストール

データがすでに格納されているサンプル・データベースも提供されています。

このサンプル・データベースの目的は、新規 Rational DOORS ユーザーが、実動データにアクセスしたり、ローカルに Rational DOORS サーバーをインストールしたりすることがなくても、Rational DOORS に習熟する機会を得られるようにすることです。

サンプル・データをインストールするには

1. Rational DOORS クライアントが既にマシンにインストールされていることを確認します。
2. 旧バージョンの Rational DOORS の練習用データベースがマシンに搭載されている場合、それを削除します。
3. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。特に、Microsoft Office ツールバーも含め、Microsoft Office アプリケーションのシャットダウンを忘れないでください。

4. Rational DOORS サンプル・データ・ソフトウェアを Web サイトからダウンロードし、ダウンロードしたファイルまで移動してダブルクリックします。

「ようこそ」画面が表示されます。

5. 「次へ」をクリックします。

「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。

6. ライセンス合意の諸条件を受け入れる場合は、「合意 (I accept...)」を選択し、「次へ」をクリックします。

「プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。

7. 「インストール」をクリックします。

すべてのファイルのコピーが完了すると、[Completed] 画面が表示されます。

8. 「完了」をクリックします。

9. サンプル・データベースを実行してデータベースが正しくインストールされていることを確認します。

「開始」>「すべてのプログラム」>「IBM Rational」>「IBM Rational DOORS 9.2 サンプル・データ」の順にクリックします。

Rational DOORS のアンインストール

Windows の「コントロールパネル」から、「アプリケーションの追加と削除」を使用し、それぞれ Rational DOORS データベース・サーバー、Rational DOORS クライアント、または Rational DOORS サンプル・データのバージョン 9.2 を削除します。

注 Rational DOORS サンプル・データを Windows Vista 上からアンインストールする場合は、警告ダイアログ・ボックスが表示されます。「自動的にアプリケーションを閉じる」をクリックします。ソフトウェアは、通常どおりアンインストールされます。

4 バージョン 9.0 以降からのアップグレード

この章では、バージョン 9.0 および 9.1 から Rational DOORS 9.2 にアップグレードする方法について説明します。

- 9.0 および 9.1 から Rational DOORS 9.2 にアップグレードするユーザー向けの情報
- アップグレードおよびインテグレーション
- Rational DOORS へのデータの移行 9.2
- Rational DOORS のインストール
- インストールの確認

9.0 および 9.1 から Rational DOORS 9.2 にアップグレードするユーザー向けの情報

常に、Rational DOORS 9.2 は、デフォルトで ¥IBM¥Rational¥DOORS¥9.2 という名前の新しいディレクトリにインストールされます。インストールが成功した後、バージョン 9.0 または 9.1 は削除されます。

現在のインストール環境と同じディレクトリに Rational DOORS 9.2 をインストールすることはできません。

Rational DOORS 9.2 が正常にインストールされた後、「開始」> 「すべてのプログラム」> 「IBM Rational」メニューには、「IBM Rational DOORS9.2」が表示されます。

データの移行

次のいずれかの操作をします。

- Rational DOORS 9.2 をインストールしてから、バージョン 9.0 または 9.1 のデータを 9.2 データ・フォルダに移行します。
- Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーをインストールするときに、データベース設定画面で、バージョン 9.0 または 9.1 のデータ・フォルダへのパスを入力します。

ライセンス

すでにバージョン 9.0 または 9.1 を実行していて、有効な保守契約を結んでいる場合、Rational DOORS 9.2 に対して新しいソフトウェア・ライセンスは必要ありません。

バージョン 9.0 と Rational DOORS 9.2 間の互換性

- バージョン 9.0 のクライアントは、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーに接続できます。
- Rational DOORS 9.2 のクライアントは、バージョン 9.0 データベース・サーバーに接続できます。
- Rational DOORS 9.2 は、バージョン 9.0 のデータを読み取ることができます。
- バージョン 9.0 のクライアントは、Rational DOORS 9.2 のプロジェクト・アーカイブ、モジュール・アーカイブ、およびパーティションを読み取ることができます。

バージョン 9.1 と Rational DOORS 9.2 間の互換性

- バージョン 9.1 のクライアントは、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーに接続できます。
- Rational DOORS 9.2 のクライアントは、バージョン 9.1 データベース・サーバーに接続できます。
- Rational DOORS 9.2 は、バージョン 9.1 のデータを読み取ることができます。
- バージョン 9.1 のクライアントは、Rational DOORS 9.2 のプロジェクト・アーカイブ、モジュール・アーカイブ、およびパーティションを読み取ることができます。

アップグレードおよびインテグレーション

バージョン 9.0 または 9.1 から 9.2 にアップグレードし、Rational DOORS 9.2 とともにインテグレーション製品を動作させる場合は、インテグレーション製品を再インストールする必要があります。

注 **addins.idx** ファイルをカスタマイズしている場合は、アップグレードの前にバックアップします。Rational DOORS 9.0 または 9.1 から 9.2 にアップグレードすると、現在のバージョンの **addins.idx** は上書きされます。

Rational DOORS 9.2 とともに動作するように Quality Center Integration をアップグレードした場合、8.3 データベースへのデータ接続を使用または作成することはできなくなります。

Rational DOORS へのデータの移行 9.2

念のため、移行の前には、必ず Rational DOORS データのバックアップをとっておいてください。バックアップ手順は次のとおりです。

1. Rational DOORS データベース・サーバーを停止し、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーが使用しているディレクトリに Rational DOORS データ・ディレクトリをコピーします。

2. Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーを起動します。

データの移行を開始するには、Rational DOORS 9.2 クライアントから Administrator でログインし、データを移行することを確認する必要があります。移行が完了するまで、Rational DOORS は使用できません。Rational DOORS クライアントは、Rational DOORS データベース・サーバー・マシンまたは異なるコンピュータで実行できます。

管理者が正常にログインしなかった場合、または移行の必要性を確認しなかった場合、移行は行われません。

3. 「開始」>「すべてのプログラム」>「IBM Rational」>「IBM Rational DOORS9.2」の順に選択します。

ログイン画面が表示されます。

注 ログイン画面が表示されない場合は、既存のデータが正しいディレクトリにコピーされていません。アーカイブとリストアを使用したデータの移行を選択した場合、ダイアログは表示されません。

4. 管理者のパスワードを入力します。Administrator 以外の Rational DOORS ユーザーは、移行前のデータベースにはログインできません。

Administrator のパスワードが不明な場合は、お近くのサポート・センターまでお問い合わせください。

正常にログインしたら、確認ダイアログが表示されます。

5. 「確認」をクリックして、移行を開始します。

注 データのサイズによっては、移行が数分で終了することもあります。

移行が完了すると、Rational DOORS データベース・エクスプローラが表示されます。

dbadmin パスワードがある場合、次の手順を実行する必要があります。

a. Rational DOORS データベース・サーバーからログアウトし、停止します。

b. dbadmin パスワードを再設定します。

DOS コンポーネント・プロンプトを開き、bin ディレクトリーに移動して、次の形式でコマンドを入力します。

```
doorsd -R <newpassword> -s <datadirectory>
```

c. Rational DOORS データベース・サーバーを再始動します。

データにアクセスできるようになり、他の Rational DOORS ユーザーも Rational DOORS 9.2 にログインできます。

Rational DOORS のインストール

Rational DOORS のインストールについては、次のうち適切な章を参照してください。

- 9 ページの『Windows への Rational DOORS の新規インストール』
- 47 ページの『UNIX 上での Rational DOORS サーバーのインストール』

インストールの確認

空のデータ・フォルダーを指すインストールの場合

1. 「開始」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Rational」 > 「IBM Rational DOORS9.2」の順にクリックします。
レポートが表示されます。
2. [OK] をクリックします。
「パスワードの変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 管理者ユーザーに使用するパスワードを、「新規パスワード」と「新規パスワードの確認」に入力します。パスワードは最低 6 文字の長さが必要です。
4. [OK] をクリックします。

注 このパスワードはメモしておいてください。パスワードを忘れた場合は、サポート・センターにお問い合わせください。

5. データベース・エクスプローラーと、「今日のヒント」画面が表示されます。
6. 「OK」をクリックして「今日のヒント」画面を閉じます。
7. ユーザー・アカウントの作成
管理者アカウントは緊急時にしか使用してはならないため、新たにユーザー・アカウントを作成し、次回の Rational DOORS ログイン時に、そのアカウントを使用する必要があります。
 - a. 「ツール」>「ユーザーの管理」順にクリックします。
 - b. 「ユーザー」タブで「新規」をクリックします。
 - c. 「ユーザー名」ボックスにユーザー名を入力します。
 - d. 「データベース管理者」ユーザータイプをクリックします。
 - e. 「OK」をクリックします。
8. 「ファイル」>「終了」をクリックして、Rational DOORS を終了します。
管理者ユーザーとしての作業が完了したら直ちにログオフします。

既存の v9 のデータを使用したインストールの場合

1. 「開始」>「すべてのプログラム」>「IBM Rational」>「IBM Rational DOORS」9.2 の順にクリックします。
Rational DOORS がロードされ、ログイン画面が表示されます。
2. ユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
ユーザー名がない場合は、Rational DOORS の管理者に連絡してください。
3. データベース・エクスプローラーが表示されます。

5 バージョン5、6、7、または8からのアップグレード

この章では、バージョン5、6、7、または8から Rational DOORS 9.2 にアップグレードする場合に考慮する必要があることについて説明します。

考慮することには、更新パス、ライセンス、データの移行などが含まれます。

インストールの手順は、Rational DOORS 9.2 にアップグレードする場合でも、最初からインストールを行う場合でも同一です。インストールの手順については、文中の適切なリンクをたどってください。

- 移行のパス
- バージョン7または8からのアップグレード
- 前のバージョンからのデータの移行
- ライセンスの変更
- アップグレードおよびインテグレーション
- フェーズでの設定
- 新規インストール・オプション
- データのアップグレードおよび移行
- Rational DOORS のインストール

移行のパス

バージョン5、6、7、または8から移行する場合は、このセクションを参照してください。

バージョン5からの移行

バージョン5から Rational DOORS にデータを直接移行することはできません。9.2 最初に、データをバージョン 6.0 SR1 形式に移行する必要があります。続いて、Rational DOORS 9.2 に移行することができます。すべてのバージョン5クライアントをバージョン 6.0 SR1 にアップグレードする必要はありません。バージョン5データベースのみ、移行の必要があります。

次の手順でデータを移行します。

1. バージョン 6.0 SR1 サーバー・インストールを行い、デフォルトのデータ・ディレクトリを選択します。
2. このデフォルトのディレクトリに、バージョン 5 データベースをコピーします。
3. バージョン 6.0 SR1 を実行します。
4. 管理者としてログインします。
5. 「**確認**」をクリックして、データを移行します。

注意 Module Migrator DXL を実行して、バージョン 5 からバージョン 6.0 SR1 へのデータ移行を完了する必要があります。この DXL は、サポート・センターに連絡すれば入手できます。大規模なデータベースを移行している場合は、複数の Rational DOORS クライアントで DXL を実行することができます。この場合、各クライアントは異なるマシン上で実行されている必要があります。この DXL により、異なるデータ・セクションを同時に移行することが可能になります。Module Migrator DXL の実行中、そのマシンで同時に複数の Rational DOORS クライアントを実行しないでください。

バージョン 5 からバージョン 6.0 SR1 へのデータ移行が完了したら、バージョン 6.0 SR1 から Rational DOORS 9.2 へデータを移行することができます。詳しくは、39 ページの『データのアップグレードおよび移行』を参照してください。

バージョン6、7、または8からの移行

バージョン 6.0 SR1 以降からは、Rational DOORS 9.2 へ直接データを移行できます。

バージョン7または8からのアップグレード

Rational DOORS 9.2 は、バージョン 7 または 8 を上書きしません。Rational DOORS 9.2 を Windows 上にインストールすると、以下のデフォルトが適用されます。

- Rational DOORS 9.2 は「¥IBM¥Rational¥DOORS¥9.2」という新しいディレクトリにインストールされます。

- 「**IBM Rational DOORS 9.2**」という新しいラベルが、「開始」>「すべてのプログラム」>「**IBM Rational DOORS**」メニューに追加されます。
- Rational DOORS データベース・サーバー・サービスは、**Rational DOORS DB Server9.2** と呼ばれます。

注 Rational DOORS 9.2 がインストールされた PC に、複数のデータベース・サーバー・サービスをインストールできます。詳細については、「*Rational DOORS の管理*」を参照してください。このマニュアルは、**Rational Lifecycle Solutions DVD** または web サイト www.ibm.com/software/awdtools/doors/support/doc.html から入手できます。

- Rational DOORS データベース・サーバーのデフォルト・ポート番号は 36677 です。これは、旧バージョンのデフォルト・ポート番号と同じです。使用しているマシンから既存の Rational DOORS データベース・サーバーと Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーを実行できるようにする場合は、9.2 データベース・サーバーを異なるポートで実行する必要があります。
- デフォルトでは、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーは「Rational DOORS 9.2」ディレクトリの空のデータ・ディレクトリを使用します。このデフォルト・パスを変更しないでください。デフォルト・パスを使用すると、既存のデータの移行方法と移行時期をより細かく制御できます。選択できるオプションの詳細については、36 ページの『前のバージョンからのデータの移行』を参照してください。
- Rational DOORS 9.2 クライアントは、新しいディレクトリにインストールされます。デフォルトでは、このディレクトリは C:\Program Files\IBM\Rational\DOORS\9.2 です。以前のバージョンは上書きされないので、同じマシンでバージョン7やバージョン8を Rational DOORS 9.2 と同時に実行できます。

これらのデフォルトは UNIX には適用されません。UNIX でのアップグレードについては、47 ページの『Rational DOORS データベース・サーバーのインストール』を参照してください。

前のバージョンからのデータの移行

注意 Rational DOORS 9.2 のインストール前、または Rational DOORS 9.2 へのデータ移行前に、データ・ディレクトリをコピーしてください。Rational DOORS 9.2 形式にデータを移行すると、元に戻せません。

既存のデータを Rational DOORS 9.2 に移行する場合、4つのオプションがあります。

- 現在の DOORS データベース・サーバーを停止し、既存の Rational DOORS データ・ディレクトリを Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーが使用しているディレクトリにコピーして、Rational DOORS データベース・サーバーを再起動します。Rational DOORS 9.2 クライアントを起動して、Administrator としてログインします。

このオプションを使うと、以下のように、データの移行時に最大限の制御が可能になります。Rational DOORS データベース・サーバーとすべての Rational DOORS クライアントをインストールし、それらのサーバーとクライアントが空のデータ・ディレクトリを使用するよう設定します。Rational DOORS 9.2 クライアントは、準備ができるまでは既存のデータにアクセスできず、データも移行できません。データ移行の準備が整った段階で、既存のデータを空のデータ・ディレクトリにコピーし、このディレクトリを使用して Rational DOORS クライアントを実行します。Administrator としてログインすると、データが Rational DOORS 9.2 に移行されます。

- Rational DOORS 9.2 のインストール時に、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーが既存の Rational DOORS データ・ディレクトリを使用するよう設定しておき、Rational DOORS クライアントを実行して、Administrator としてログインします。

次のことを確認してください。

- a. Rational DOORS データ・ディレクトリのコピーを作成していない。
- b. データの移行準備が整ったことを確認していない。

データを移行できるのは、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーを使用しており、Administrator パスワードにアクセスできる Rational DOORS クライアントである点に注意してください。

- 移行するプロジェクトをアーカイブし、続いて Rational DOORS 9.2 にリストアします。

このオプションは、Rational DOORS 9.2 の初期テストとしてのみ使用してください。データ移行の手段としてアーカイブとリストアを使用すると、時間がかかります。また、アクセス制御やプロジェクト間のリンクが失われます。

- 現在の Rational DOORS データ・ディレクトリのコピーを作成します。バージョン 7 または 8 のクライアントからコピーされたデータ・ディレクトリにアクセスし、Rational DOORS 9.2 に移行しないプロジェクトとフォルダを削除します。

このオプションを使うと、Rational DOORS のデータを段階的に移行できます。ただし、最初のデータ移行後、残りの Rational DOORS データについては、アーカイブおよびリストアを行って Rational DOORS 9.2 に移行する必要があります。このデータ移行方法は、時間がかかります。移行されたのと同じマスター・データベースからデータをアーカイブおよびリストアする場合は、アクセス制御とプロジェクト間のリンクが維持されます。

ライセンスの変更

必要な作業は、実行しているバージョンと有効な保守契約を結んでいるかどうかによって異なります。

- バージョン 8.2 または 8.3 が稼働していて有効な保守契約を結んでいる場合は、Rational DOORS 9.2 をインストール、実行するための新しいライセンスを要求する必要はありません。
- バージョン 8.2 または 8.3 が稼働していて有効な保守契約を結んでいない場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
The FEATURE name DOORS with version 2009.0601 cannot be found.  
License server does not support this version of the feature
```

このメッセージが表示された場合は、新しいライセンスを入手する必要があります。

- 8.2 よりも前のバージョンを実行している場合は、Rational DOORS を実行するための新しいライセンスが必要です。また、Rational License Server TL のバージョン 1.3、1.4、または 1.5 のいずれかをインストールする必要もあります。

バージョン 8.2 がリリースされた際、FLEXnet のバージョンを v11.5 にアップグレードし、Rational DOORS デーモンではなく、Telelogic ベンダー・デーモンを使用するようにすべての Rational DOORS ライ

センスを変更しました。このデーモンによって、すべてのライセンスを1つのライセンス・キーにマージできます。ライセンス管理に使用するデフォルトポート番号は、19353に変更されました。これまでライセンス管理に使用されたポート番号は7192です。

Rainbow ドングルは Rational DOORS ではサポートされなくなりました。Rainbow ドングルを使用していたお客様は、お近くのサポート・センターまでお問い合わせください。他の既存のハードウェア・ライセンスはそのまま使用できます。

ライセンスの詳細については、**Rational Lifecycle Solutions DVD** から、および弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な「*Rational License Server TL ライセンス・ガイド*」を参照してください。

アップグレードおよびインテグレーション

アップグレードする場合は、インテグレーション製品もアップグレードする必要があります。リリースされている新しいバージョンのすべてのインテグレーション製品が、以下の CD またはサイトから入手できます。

- Rational DOORS Add Ons CD
- Rational DOORS for HP Quality Center Interface CD
- Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface CD
- Rational の Web サイト

フェーズでの設定

Rational DOORS 9.2 は以前のインストール環境を上書きしないので、現在使用中のバージョンと並行して、Rational DOORS データベース・サーバーとすべての Rational DOORS クライアントをインストールできます。データの移行時に選択できます。一部のユーザーについて、新しいバージョンの Rational DOORS を使用して開始するようにし、残りのユーザーは旧バージョンの使用を継続する場合は、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーが既存のデータベース・サーバーと異なるポートを使用していることを確認してください。

新規インストール・オプション

インストール・オプションはバージョン 8.0 の後に変更されました。

v9/v8	v7.1	v6.0 SR1
DOORS クライアント・インストール	DOORS 標準エンド・ユーザー	DOORS クライアント・インストール
DOORS データベース・サーバーのインストール	DOORS/ERS サーバー・インストール	DOORS サーバー・インストール
	DOORS ノート PC/ スタンドアロン PC	DOORS サーバー・インストール
	ワークステーション・クライアント	DOORS リモート・アクセス・クライアント

データのアップグレードおよび移行

- バージョン 7 およびバージョン 8 のクライアントは、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーに接続できません。
- Rational DOORS 9.2 クライアントは、バージョン 7 またはバージョン 8 のデータベース・サーバーに接続できません。
- Rational DOORS 9.2 は、バージョン 5、バージョン 6.0 SR1、バージョン 7、またはバージョン 8 のプロジェクト・アーカイブおよびモジュール・アーカイブを読み取ることができます。
- バージョン 7 およびバージョン 8 のクライアントは、Rational DOORS 9.2 のプロジェクト・アーカイブ、モジュール・アーカイブ、またはパーティションを読み取ることができません。
- Rational DOORS 9.2 のクライアントは、バージョン 7 またはバージョン 8 のパーティションを読み取ることができません。パーティションは、Rational DOORS 9.2 へのデータ移行前に再結合またはリカバリーする必要があります。
- CPS レビュー・サイクルは、Rational DOORS 9.2 へのデータ移行前に完了している必要はありません。

バージョン 7 またはバージョン 8 のクライアントが Rational DOORS 9.2 サーバーに接続しようとしても接続は許可されず、以下のメッセージが表示されます。

サーバーに接続できません。ネットワークがビジーです。(Cannot connect to server. The network is busy.)

Rational DOORS へのデータの移行 9.2

念のため、移行の前には、必ず Rational DOORS データのバックアップをとっておいてください。バックアップ手順は次のとおりです。

1. Rational DOORS データベース・サーバーを停止し、Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーが使用しているディレクトリに Rational DOORS データ・ディレクトリをコピーします。

2. Rational DOORS 9.2 データベース・サーバーを起動します。

データの移行を開始するには、Rational DOORS 9.2 クライアントから Administrator でログインし、データを移行することを確認する必要があります。移行が完了するまで、Rational DOORS は使用できません。Rational DOORS クライアントは、Rational DOORS データベース・サーバー・マシンまたは異なるコンピュータで実行できます。

管理者が正常にログインしなかった場合、または移行の必要性を確認しなかった場合、移行は行われません。

3. 「開始」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Rational」 > 「IBM Rational DOORS9.2」の順に選択します。

ログイン画面が表示されます。

注 ログイン画面が表示されない場合は、既存のデータが正しいディレクトリにコピーされていません。アーカイブとリストアを使用したデータの移行を選択した場合、ダイアログは表示されません。

4. 管理者のパスワードを入力します。Administrator 以外の Rational DOORS ユーザーは、移行前のデータベースにはログインできません。

Administrator のパスワードが不明な場合は、お近くのサポート・センターまでお問い合わせください。

正常にログインしたら、確認ダイアログが表示されます。

5. 「確認」をクリックして、移行を開始します。

注 データのサイズによっては、移行が数分で終了することもあります。

移行が完了すると、Rational DOORS データベース・エクスプローラが表示されます。

dbadmin パスワードがある場合、次の手順を実行する必要があります。

- a. Rational DOORS データベース・サーバーからログアウトし、停止します。
- b. dbadmin パスワードを再設定します。

DOS コンポーネント・プロンプトを開き、bin ディレクトリーに移動して、次の形式でコマンドを入力します。

```
doorsd -R <newpassword> -s <datadirectory>
```

- c. Rational DOORS データベース・サーバーを再始動します。

データにアクセスできるようになり、他の Rational DOORS ユーザーも Rational DOORS 9.2 にログインできます。

Rational DOORS のインストール

Rational DOORS のインストールについては、次のうち適切な章を参照してください。

- 9 ページの『Windows への Rational DOORS の新規インストール』
- 47 ページの『UNIX 上での Rational DOORS サーバーのインストール』

6

Citrix での Rational DOORS のインストールと使用

この章では、Citrix 上に Rational DOORS をインストールする方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- サポートされるプラットフォーム
- インストールの指針
- 環境仕様
- 外部リンクの設定

サポートされるプラットフォーム

Rational DOORS9.2 は以下のプラットフォームでサポートされています。

- Windows 2003 Server Standard および Enterprise Edition 上の Citrix XenApp 5.0 (Advanced) (32 ビット および 64 ビット) と Windows XP 上の Citrix ICA client v 10.00.52110 の組み合わせ

Rational DOORS 9.2 は、サポートされている他の Rational DOORS プラットフォーム上にある他のバージョンの Citrix とも動作する可能性はあります。しかし、それらについては、テストは行われておらず、サポートもされません。

インストールの指針

Citrix をインストールする際には、ホスト・マシン上で端末サービスを起動しておく必要があります。以下の手順は、アプリケーションをインストールする前に実行しておきます。Citrix のインストール時には、ドライブ A:、C:、D: の名前を M:、N:、O: などに変更しておくことと便利です。このように変更すると、Citrix クライアントは、リダイレクト機能によってそのローカル・ドライブを A:、C:、および D: のドライブ名にマップできます。また、スワップファイルのサイズは、使用可能なメモリ量の 2.5 倍に増やします。レジストリー・ファイルのサイズも、必要な複数の **current_user_keys** を収容できるように大きくしておきます。

Citrix 上への Rational DOORS 9.2 のインストールは、「インストール・モード」で実行する必要があります。

Rational DOORS 9.2 を「シームレス・モード」で表示するように設定します。「デスクトップ・モード」で表示すると、問題が発生する可能性があります。

製品のパフォーマンスを強化した結果、Citrix ICA クライアントで 16 ビット・カラー深度の解像度を使用している場合、Rational DOORS 9.2 クライアントは、強調表示されたテキストの色のみを正しく表示します。

環境仕様

性能を最大限に高めるために、Rational DOORS データベース・サーバーは、Citrix サーバーとは別のマシンにインストールしてください。性能を最適化するには、可能な限り両方のマシンを物理的に近い場所に設置してください。Rational DOORS ライセンス・サーバーは、これらのいずれかのマシン上にも、別のマシン上にも配置することができます。

Rational DOORS Integration および Citrix 環境について詳しくは、Integration のユーザー・ドキュメントを参照してください。

外部リンクの設定

外部リンクが Citrix 経由で Rational DOORS 内の場所にアクセスするように、Rational DOORS を構成する必要があります。

外部リンクを設定するには

1. Citrix サーバーでは、protocolhandler.exe を出力してパラメーターを受け入れます。

```
C:¥Program Files¥IBM¥Rational¥DOORS¥9.2¥bin¥protocolhandler.exe
%*
```

2. Citrix Rational DOORS クライアントがアクセスしているデスクトップでは、以下を .reg ファイルにコピーして実行し、レジストリーに追加します。

```
Windows Registry Editor Version 5.00
[HKEY_CLASSES_ROOT¥doors]
@="URL:DOORS protocol"
"URL Protocol"=""

[HKEY_CLASSES_ROOT¥doors¥Default Icon]
@=""

[HKEY_CLASSES_ROOT¥doors¥shell]
[HKEY_CLASSES_ROOT¥doors¥shell¥open]
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\doors\shell\open\command]
@="%%C:%%Program Files%%Citrix%%ICA Client%%pn.exe" /
pn:DOORS_CITRIX /app:protocolhandler /param:%%"-r 120 -url %1%%"
```

- DOORS_CITRIX は、protocolhandler および Rational DOORS アプリケーションを含む、アプリケーション・セット名です。
- protocolhandler は、Citrix サーバーで出力されたとおりのアプリケーション名です。
- -r 120 -url %1 は、Citrix サーバーの protocolhandler アプリケーションに渡されたパラメーターです。URL をクリックすると、%1 は URL 文字列と置き換わります。

外部リンクをクリックすると、そのリンクが開きます。

7

UNIX 上での Rational DOORS サーバーのインストール

この章では、UNIX コンピューター上に Rational DOORS のバージョン 9.2 をインストールし、設定する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- UNIX 上でのインストールとは？
- Rational DOORS データベース・サーバーのインストール

UNIX 上でのインストールとは？

Rational Lifecycle Solutions DVD には、UNIX 上に Rational DOORS サーバーをインストールするためのファイルが含まれています。これらのファイルは弊社の Web サイト <http://www.ibm.com/software/awdtools/doors> からダウンロードできます。

ファイル名は以下のとおりです。

- **solaris_server.zip**
- **hpux_server.zip**
- **linux_server.zip**

Rational DOORS データベース・サーバーのインストール

Rational DOORS サーバーの UNIX バージョンを従来のクライアント / サーバー構成で使用するには、まずサーバー・マシンに Rational DOORS データベース・サーバーをインストールし、次に Windows クライアント・マシンに Rational DOORS をインストールします。クライアントが、Rational DOORS データを送受信するポートのデータベース・サーバーに接続していることを確認してください。

以前のバージョンの Rational DOORS からアップグレードを行う場合は、33 ページの『バージョン 5、6、7、または 8 からのアップグレード』の章を参照してください。

Rational DOORS データベース・サーバーをインストールするには

1. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://www-01.ibm.com/software/awdtools/doors/sysreqs/> を参照してください。

2. 初めて Rational DOORS をインストールする場合は、ステップ 4 に進みます。
3. 再インストールしようとしている場合は、Rational DOORS データベース・サーバーを停止します。
 - a. 作業ディレクトリーを \$DOORSHOME/bin に変更します。
 - b. 以下のコマンドを入力します。

```
dbadmin -data port@computer -killserver [-password password]
```

各パラメーターの意味については、次の表を参照してください。

パラメーター	説明
<i>port</i>	サーバーが使用しているポート番号 (デフォルトは 36677)
<i>computer</i>	サーバーが起動しているコンピューター名
<i>password</i>	サーバーのパスワード (パスワードを空白にしている場合は <code>-password</code> スイッチを省略する)

4. root としてログインします。インストールには、この root アカウントを使用する必要があります。
5. 初めて Rational DOORS をインストールする場合は、非特権ユーザー・アカウントを作成して、Rational DOORS のデータとアプリケーション・ファイルの所有者にします。

doors という名前のアカウントを作成します。このユーザーは **Rational DOORS 所有者** と呼ばれます。
6. Rational DOORS のインストール先ディレクトリー (Rational DOORS ホーム・ディレクトリー) を設定します。
 - a. Rational DOORS ホーム・ディレクトリーを作成します。
 - b. `chown` コマンドを使用して、新しいディレクトリーの所有者を Rational DOORS 所有者に設定します。
 - c. \$DOORSHOME 環境変数に新しいディレクトリーを指します。
7. インストールは、Rational Solutions DVD、または Rational の Web サイトからダウンロードした Rational DOORS ソフトウェアから行えます。

このソフトウェアを Web サイトからダウンロードした場合は、そのソフトウェア・アーカイブをコンピューター上の一時的な場所に解凍して、ステップ 8 に進みます。

DVD から Rational DOORS をインストールする場合は次の操作を行います。

- a. **Rational Lifecycle Solutions DVD** を DVD-ROM ドライブに挿入します。
- b. ドライブをマウントします。

次の表に、DVD-ROM ドライブのマウント方法を示します。

プラットフォーム	コマンド例
Solaris	<code>mount -r -F hsfs /dev/sr0 /cdrom</code>
HP-UX	<code>mount -r -F cdfs /dev/dsk/c0t2d0 /cdrom</code>
Linux®	<code>mount /dev/cdrom</code>

注 Solaris および Linux において、ボリューム・マネージャーが設定されている場合は、DVD-ROM が自動的にマウントされます。

- c. DVD 上の Rational DOORS UNIX サーバー・ディレクトリーに移動して、使用するサーバー アーカイブ ファイルをコンピューター上の一時的な場所に解凍します。
8. ディスク装置を含む絶対パス名を指定して、インストール・スクリプトを実行します。例えば、アーカイブを `/mydisk/temp` に解凍する場合は、次のように入力します。
`/mydisk/temp/doors_9/unix/bin/instdoor.sh`
9. 画面上の指示に従って、Rational DOORS をインストールします。
10. 次の手順に従って、画面上のプロンプトに答えます。
 - a. DVD-ROM デバイス、または Rational DOORS ディストリビューションへのパスを入力します。
`[/cdrom]`
 - b. 2 番目のプロンプトに対して、次のように「y」と入力して、Rational DOORS データベース・サーバーをインストールします。

```
Install package DOORS_SERVER [y]:y
```

- c. ステップ 6 で作成した Rational DOORS のホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
- d. プロンプトで n または y を入力します。

```
Install DOORS SERVER Interface Services [n]:
```

y を入力すると、Rational Requirements Composer など、その他の一部の製品と Rational DOORS のインターフェースを可能にする Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスがインストールされます。y を入力したら、73 ページの『Solaris への Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスのインストール』または 85 ページの『Linux への Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスのインストール』へ移動してこの操作を続行します。

n を入力すると、Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスはインストールされません。

- e. Rational DOORS の所有者の名前（デフォルトは doors）を入力します。
 - f. このサーバーのインストールを確定します。
 - g. 次に、インストール・スクリプトは、すべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。インストールが完了したら、**Enter** キーを押します。
11. Rational DOORS の所有者のスタートアップ・ファイルを編集します。

次の表に、追加または編集が必要な行を示します。

スタートアップ・ファイル	コード
Bourne シェルまたは K シェル 「.profile」	DOORSHOME=doors-home-path [SERVERDATA=datapath PATH=\$DOORSHOME/bin:\$PATH PORTNUMBER=database-server-port-number export DOORSHOME SERVERDATA PATH PORTNUMBER DOORSDATA
C シェル 「.login」	setenv DOORSHOME doors-home-path setenv SERVERDATA datapath set path=(\$DOORSHOME/bin \$path) setenv PORTNUMBER database-server-port-number

12. Rational DOORS データベース・サーバーを起動します。

- a. Rational DOORS の所有者のユーザーとしてログインします。
- b. 作業ディレクトリーを \$DOORSHOME/bin に変更します。
- c. 以下のコマンドを入力します。

```
./doorsd &
```

注 Korn シェルを使用し、かつシステムのスタートアップスクリプトで「`doorsd &`」を使用していない場合は、上のコマンドに代わって次のコマンドを実行する必要があります。

```
"nohup doorsd &"
```


8

Windows への Rational DOORS サーバー・ インターフェース・サービスのインス トール

この章では、Windows マシンに Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービスのコンポーネントをインストールし、設定する方法について説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 概要
- インターフェース・サービスのコンポーネント
- インターフェース・サービスのコンポーネントのインストール
- コンポーネントの設定
- 複数の Interoperation Server の実行
- システムの起動
- インターフェース・サービスの構成
- システムのシャット・ダウン
- 同じマシンでのインターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access の実行
- インターフェース・サービスのアンインストール

概要

データベース・サーバーのインストールの「**設定のタイプ**」画面で「**カスタム**」を選択すると、Rational DOORS データベース・サーバーと Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービス（インターフェース・サービス）の両方がインストールされます。これにより Rational DOORS は、選択した統合製品とインターフェースをとることができます。

Rational DOORS データベース・サーバーのみをインストールする場合は、9 ページの『Rational DOORS データベース・サーバーのインストール』の手順に従ってください。

インターフェース・サービスのコンポーネント

インターフェース・サービスのインストールには、多数の個別のコンポーネントのインストールが含まれます。これらのコンポーネントはマシンにコピーされます。

コンポーネント	説明
Interface サービス・サーバー	<p>Apache Tomcat の適合。Tomcat は Java® サブレットを実行し、JavaServer Pages のコードが含まれている Web ページをレンダリングするアプリケーション・サーバーです。</p> <p>Rational で提供される Tomcat の適合バージョンを、Rational DOORS のインターフェース・サービスでバンドルされているコンポーネントの 1 つとして実行する必要があります。</p>
Interface サービス・ブローカー	<p>Apache ActiveMQ の適合。ActiveMQ はオープン・ソースのメッセージ・ブローカーで、Java Message Service (JMS) を実装しています。</p> <p>このブローカーは、Rational DOORS のインターフェース・サービスでバンドルされているコンポーネントの 1 つとして、Rational で提供されます。</p>
Rational DOORS データベース・サーバー	<p>アクセスしようとするデータは、Rational DOORS データベース・サーバーに格納されています。</p>
Interoperation Server	<p>-interop コマンド・ライン・パラメーターを使用して実行する、Rational DOORS のクライアント。</p>

インターフェース・サービスのコンポーネントのインストール

インターフェース・サービスを実行するには、いくつかのコンポーネントをインストールする必要があります。コンポーネントをインストールするには、以下のトピックの指示に従います。

- Rational DOORS データベース・サーバーのインストール
- Interoperation Server のインストール
- インターフェース・サービスのサーバーおよびインターフェース・サービスのブローカーのインストール

Rational DOORS データベース・サーバーのインストール

「設定のタイプ」画面で「カスタム」設定タイプを使用して、データベース・サーバーをインストールする必要があります。

カスタム設定タイプを使用して **Rational DOORS** データベース・サーバーをインストールするには

1. 9 ページの『Rational DOORS データベース・サーバーのインストール』のステップ 1 からステップ 8 に従います。
2. 「設定のタイプ」画面で「カスタム」設定タイプを選択します。
「カスタム設定」画面が表示されます。
3. 「**DOORS** サーバー・インターフェース・サービス」アイコンをクリックして、インストール・オプションを選択します。
4. 「次へ」をクリックします。
「**DOORS Database Server** の設定 (**DOORS Database Server Settings**)」画面が表示されます。
5. ポート番号とデータ・ディレクトリーを入力します。
 - a. 「ポート番号」に、Rational DOORS データベース・サーバーが使用するポート番号を入力します。1000 未満の数値は使用しないでください。Rational DOORS が使用するデフォルトのポート番号は 36677 です。
 - b. 「データ・ディレクトリー」で、Rational DOORS データベースで使用するディレクトリーへのパスを入力します。このディレクトリーは、ローカル・マシン上にある必要があります。この場所には、データとユーザー情報が格納されます。Rational DOORS ではデータに対してマッピングされたドライブをサポートしていません。
 - c. 「次へ」をクリックします。

注 指定したポートが別のアプリケーションで既に使用されている場合は、メッセージが表示されます。「**OK**」をクリックして別のポート番号を入力し、「**次へ**」をクリックします。

「プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。

これまでに定義した設定内容が表示されます。設定を変更する場合は、「**戻る**」ボタンをクリックします。

6. 「**インストール**」をクリックします。
7. すべてのファイルがインストールされると、「**完了**」画面が表示されます。「**完了**」をクリックしてインストールを終了します。

Interoperation Server のインストール

Interoperation Server は、現在の Rational DOORS クライアントです。Interoperation Server のインストールは、Rational DOORS クライアントをインストールする簡単な作業です。

Interoperation Server をインストールするには

1. Interoperation Server を実行するマシンを選択します。
2. 通常の Rational DOORS Client のインストールを実行して、Interoperation Server をインストールします。Rational DOORS データベース・サーバーの正しい詳細について入力します。クライアントのインストールの詳細は、12 ページの『Rational DOORS クライアントのインストール』を参照してください。

インターフェース・サービスのサーバーおよびインターフェース・サービスのブローカーのインストール

インターフェース・サービスのサーバーおよびインターフェース・サービスのブローカーをインストールするには

- 選択したフォルダーに interfacesYfestival-win32.zip を解凍して、次のセクションの指示に従ってコンポーネントを設定します。

コンポーネントの設定

コンポーネントを有効化して、相互に正しく通信できるようにする必要があります。

次のものを設定します。

- インターフェース・サービス・サーバー：インターフェース・サービス・ブローカー、ライセンス・サーバー、および対象の Rational DOORS データベース・リポジトリと通信するため。
- Rational DOORS データベース・サーバー：ブローカーと通信するため。

インターフェース・サービス・ブローカーは他のコンポーネントの場所を認識している必要はありません。

複数の Interoperation Server を設定することもできます。

データベースの *Universal Resource Name* を特定します。

インターフェース・サービスをいったん開始すると、データベースの Universal Resource Name (URN) が使用されます。これを特定し、後で使用するためにメモしておく必要があります。

1. Rational DOORS データベース・サーバーが稼動していない場合は、起動します。
2. Rational DOORS クライアントを起動して、データベースにログインします。
3. データベース・エクスプローラーまたはモジュール・ウィンドウで、「ツール」>「DXL の編集」の順にクリックします。
4. DXL の入力ペインに、次の DXL スクリプトを入力します。

```
print getDatabaseIdentifier()
```
5. 「実行」をクリックしてプログラムを実行します。
38f5c98719f27b6d など、16 桁の 16 進数が出力されます。この形式は、データベースの URN の一部です。この例では、データベース URN は次のようになります。urn:telelogic:ers-38f5c98719f27b6d:.
6. これは、後で使用するためにメモしておいてください。

インターフェース・サービス・サーバーの設定

インターフェース・サービス・ブローカー、ライセンス・サーバー、および対象の Rational DOORS データベース・リポジトリと通信するために、インターフェース・サービス・サーバーを設定する必要があります。

インターフェース・サービス・サーバーは、...\\server\\festival ディレクトリーを使用して構成されます。festival ディレクトリーには、次の 2 つのサブディレクトリーが含まれています。

- config

このディレクトリーには `festival.xml` が含まれています。これは、インターフェース・サービスのコア構成ファイルです。`festival.xml` ファイルの特徴は次のとおりです。

- インターフェース・サービス・サーバーがインターフェース・サービス・ブローカーおよびライセンス・サーバーと通信できるように、構成できます。
- リポジトリの URN が含まれています。この URN は、57 ページの『データベースの Universal Resource Name を特定します。』で特定される URN、または RDS Repository ID と一致しなければなりません。

注 Rational サポートのガイダンスを受けない限り、`config` ディレクトリー内の他のファイルを修正しないでください。

- custom

このディレクトリーには 1 つのサブディレクトリーが含まれており、その中には `readme.htm` と呼ばれるファイルが入っています。このファイルを使用して、ウェルカム画面を構成できます。

festival.xml の例

`festival.xml` ファイルはインターフェース・サービスのコア構成ファイルです。

```
<!-- Brokers we know about -->
  <f:endpoints>
    <f:broker
      name="GENERALSERVICES"
      url="tcp://
127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
      user name=""
      password="" />

    <f:broker
      name="DCSERVICES"
      url="tcp://
127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
      user name=""
      password="" />

    <f:broker
      name="RMSERVICES"
```

```
        url="tcp://
127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
        user name=""
        password="" />
    </f:endpoints>

    <!-- Mapping from Repository IDs to the broker we use to reach
the repository -->
    <f:mappings>
        <f:repository-mapping
            enabled="true"
            endpoint="RMSERVICES"
            name="DOORS ERS Repository"
            repositoryUrn="urn:telelogic:ers-46dd5d7806b96973:"
        />
    </f:mappings>

    <!-- Configurable system properties -->
    <f:properties>
        <f:property name="licence.server.location"
value="19353@localhost" />
        <f:property name="display.redirector.urls"
value="false" />
        <f:property name="published.url.prefix"
value="http://MYHOSTNAME:8080/doors/redirector/" />
    </f:properties>

    </f:lsc>
</f:configuration>
```

festival.xml の修正

festival.xml ファイルは、インターフェース・サービスのコア構成ファイルです。f:broker、f:repository-mapping、および f:properties のエントリを修正する必要があります。

1. この例では、インターフェース・サービス・ブローカーの場所を記述している、3つのエントリーがあります。これらのエントリーを編集して、デフォルト・ポート（61616）を使用してインターフェース・サービス・ブローカーをインストールしたマシンの url を指すようにします。インターフェース・サービス・ブローカーが、インターフェース・サービス・サーバーと同じマシンにある場合は、これらのエントリーを編集する必要はありません。

2. f:repository-mapping は、リポジトリの URN を定義します。
 - a. name 属性は、インターフェース・サービスのログオン・ページに表示される名前です。この属性は変更することができます。デフォルトは DOORS ERS Repository です。
 - b. repositoryUrn 属性は、57 ページの『データベースの Universal Resource Name を特定します。』で指定した Rational DOORS データベース・サーバーの URN と一致していなければなりません。この属性は変更する必要があります。
3. f:properties エントリはライセンス・サーバーの場所を定義します。property name 属性は、19353@localhost の値を持つ licence.server.location で、これはライセンス・サーバーのポート番号とマシン名を意味しています。この値を変更して、自身のライセンス・サーバーの場所を指すように編集します。この場所が、システムが保持しているライセンスの場所リストに追加されます。

Rational DOORS データベース・サーバーの設定

インターフェース・サービス・ブローカーと通信するには、Rational DOORS データベース・サーバーを設定する必要があります。

コマンド・ラインに Data Change Notifications (DCN) パラメーターを追加して、通信を設定します。DCN は、Rational DOORS データに対する変更情報が含まれているメッセージです。

Rational DOORS データベース・サーバーを設定するには、Rational DOORS のクライアント・マシンの ¥IBM¥Rational¥DOORS¥9.2¥bin ディレクトリーにある、dbadmin を実行します。

コマンド・ラインで、次の形式で dbadmin を実行します。

```
dbadmin -data 36677@myserver -dcnEnable -dcnBrokerUri  
"tcp://myBroker:61616" -dcnChannelName "dcn"
```

ここで使用するパラメーターは次のとおりです。

パラメーター	説明
<code>-data 36677@myserver</code>	Rational DOORS データベース・サーバーを表します。 36677 はデータベース・サーバーが使用しているデフォルト・ポート番号で、 <code>myserver</code> は、データベース・サーバーがインストールされているマシン名です。
<code>-dcnEnable</code>	DCN を有効化します。
<code>-dcnBrokerUri "tcp://myBroker:61616"</code>	インターフェース・サービス・ブローカーの場所を特定します。 <code>myBroker</code> はブローカーにホストしているマシンで、61616 はブローカーが使用しているデフォルトのポートです。
<code>-dcnChannelName "dcn"</code>	DCN のチャンネルを設定します。チャンネルの名前は常に <code>dcn</code> になります。

注 このコマンドを有効にするには、Rational DOORS データベース・サーバーを再起動する必要があります。

便利な DCN コマンド

これらのコマンドを使用して、DCN サービスのステータスをチェックし、サービスのオンとオフを切り替えます。

- 次のように `-dcnInfo` パラメーターを使用して、DCN サービスのステータスをチェックできます。

```
dbadmin -data 36677@myserver -dcnInfo
```

- 次のように、`-dcnDisable` を使用して DCN サービスをオフにして、`-dcnEnable` を使用して DCN サービスをオンにすることができます。

```
dbadmin -data 36677@myserver -dcnDisable
dbadmin -data 36677@myserver -dcnEnable
```

これらのコマンドを有効にするには、Rational DOORS データベース・サーバーを再起動する必要があります。

複数の Interoperation Server の実行

複数の Interoperation Server を実行するようシステムを設定すると、パフォーマンスが改善され、システムの可用性が向上します。

より多くのモジュールがキャッシュできるようになり、データへのアクセスが迅速になるため、パフォーマンスが改善されます。インターフェース・サービスは、Interoperation Server 間で基本的なロード・バランシングを実行するためのルーティング・ロジックを備えています。

いずれかの Interoperation Server で障害が発生してもシステムは継続して作動するため、可用性が向上します。1 台の Interoperation Server が停止しても、ユーザーは他のサーバーを使用してデータベースに継続してアクセスできます。

複数の Interoperation Server を実行するには、複数の Interoperation Server のインスタンスを起動します。

すべての Interoperation Server は次の条件を満たしていなければなりません。

- 同じインターフェース・サービス・ブローカーに接続する
- 同じ Rational DOORS データベース・サーバーを使用する

複数の Interoperation Server を異なるマシンに配置することもできます。詳細は、62 ページの『システムの起動』のステップ 3 を参照してください。

システムの起動

システムを起動するには、次の順序でプロセスを開始します。

1. `broker.start.bat` を実行し、インターフェース・サービス・ブローカーを起動します。このファイルは、インターフェース・サービス・ブローカーをホストしているマシン上で `festival-win32.zip` を解凍したディレクトリーにあります。
2. データベースをホストしているマシン上で、サービスの 1 つとして、Rational DOORS データベース・サーバーを起動します。
3. 次の形式でコマンド・ライン属性を使用して、ホスティングしているマシン上で Interoperation Server を実行します。


```
doors.exe ñinterop ñdata port@myserver ñbrokerHost myBroker
ñbrokerPort
```

ここで、

- `port` は Rational DOORS データベース・サーバーが使用しているポート番号で、`myserver` は、Rational DOORS データベース・サーバーがインストールされているマシンの名前を表します。
 - `myBroker` は、ブローカーをホストしているマシンの名前です。
 - `brokerport` は、ブローカーが使用しているポートで、デフォルトは 61616 です。
4. `server.start.bat` を実行して、インターフェース・サービス・サーバーを起動します。このファイルは、サーバーをホストしているマシン上で、`festival-win32.zip` を解凍したディレクトリーにあります。最初に実行する場合は、いくつかのファイルをアンパックする必要があるため、起動に時間がかかることがあります。
- 1、3、および 4 を実行する場合には、各プロセスに対する「dos box」コンソールがあります。これらのウィンドウは閉じないでください。

インターフェース・サービスの構成

インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーのポート、HTTPS、および Redirector Service を構成できます。

- インターフェース・サービス・サーバーのポートの構成
- インターフェース・サービス・ブローカーのポートの構成
- HTTPS の構成
- Redirector Service の構成
- 情報セキュリティに関する注意

インターフェース・サービス・サーバーのポートの構成

インターフェース・サービス・サーバーを構成する主な方法は、`conf` サブディレクトリーの `server.xml` ファイルを編集する方法です。

1. ファイルを開きます。
2. 次の行に移動します。

```
<!-- Define a non-SSL HTTP/1.1 Connector on port 8080 -->
```

3. 次の行のポート番号を変更します。

```
<Connector port="8080"
```

これは、HTTP 要求に対してサーバーがリスニングしているポートです。

この編集が終了したら、ファイルを保存してインターフェース・サービス・サーバーを再起動します。

注 server.xml ファイルを変更する場合には注意が必要です。誤って編集すると、システムの機能が完全に失われることがあります。このファイルを編集する前に、ファイルをバックアップしてください。

インターフェース・サービス・ブローカーのポートの構成

ブローカーをホストしているマシンの conf サブディレクトリーの activemq.xml ファイル、およびインターフェース・サービス・サーバーをホストしているマシン上の festival.xml ファイルを編集して、インターフェース・サービス・ブローカーを構成します。

activemq.xml ファイルには、<transportConnectors> のエントリー、およびそれに続いて複数の <transportConnector> 要素があります。それぞれ、プロトコル、およびブローカーがリスニングするポートを定義します。

activemq.xml ファイルを開いて、openwire 要素の URI 属性を変更します。デフォルトではポート 61616 になります。

```
<transportConnector name="openwire" uri="tcp://
localhost:61616"/>
```

この編集が終了したら、activemq.xml ファイルを保存します。

最後に、インターフェース・サービス・サーバーをホストしているマシンで、festival.xml ファイルを開いて、3つのブローカー・ポート（次の例の太字の部分）を変更します。

```
<!-- Brokers we know about -->
<f:endpoints>
  <f:broker
    name="GENERSERVICES"
    url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
    user name=""
    password="" />

  <f:broker
    name="DCSERVICES"
    url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
    user name=""
```

```

        password="" />

        <f:broker
            name="RMSERVICES"
            url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
            user name=""
            password="" />
    </f:endpoints>

```

この編集が終了したら、festival.xml ファイルを保存して、すべてのインターフェース・サービスのコンポーネントを再起動します。

注 activemq.xml ファイル および festival.xml ファイルを変更する場合には注意が必要です。誤って編集すると、システムの機能が完全に失われることがあります。これらのファイルを編集する前に、ファイルをバックアップしてください。

HTTPS の構成

インターフェース・サービスは、Web ブラウザーとインターフェース・サービス・サーバー間の HTTPS 通信の使用をサポートしています。

HTTPS を構成するには、証明書が必要です。証明書は、テストの目的で手動で作成することも、信頼された認証局から購入することもできます。

サーバー証明書が含まれているキーストアも必要です。Sun の Web サイトで説明されているように、標準の Java keytool 機能を使用してキーストアを作成および管理することができます。

HTTPS を使用できるようにするために、新しいコネクタを定義する必要があります。これは、サーバーの conf サブディレクトリーの server.xml ファイルにおいて、Connector 要素で定義されます。

ファイルを開いて、**太字の個所**を変更します。

```

<!-- Delete this line from the file
<Connector port="8443" maxHttpHeaderSize="8192"
maxThreads="150" inSpareThreads="25"
MaxSpareThreads="75" enableLookups="false"
disableUploadTimeout="true" acceptCount="100"
scheme="https" secure="true" clientAuth="false"
sslProtocol="TLS"
keystoreFile="c:\%Server%\keystore.ks"
keystorePass="password"
keystorePass="password"algorithm="IbmX509"
/>
--> Delete this line from the file

```

デフォルトでは、この Connector 要素はコメントアウトされています。この要素の直前の行および直後の行を削除すると、要素が有効になります。

ファイルに対する変更では、

- ポート 8443 で HTTPS を使用するようサーバーを設定します。
- キーストアのエントリーを使用して、サーバー証明書が含まれているキーストアを特定します。

この編集が終了したら、ファイルを保存してインターフェース・サービス・サーバーを再起動します。

注 `server.xml` ファイルを変更する場合には注意が必要です。誤って編集すると、システムの機能が完全に失われることがあります。このファイルを編集する前に、ファイルをバックアップしてください。

HTTPS の構成、および構成の他の方法についての詳細は、Tomcat のユーザー・ドキュメントを参照してください。

Redirector Service の構成

Rational DOORS Redirector Service、インターフェース・サービス・サーバー、および Rational DOORS データベース・サーバーを構成する必要があります。

1. `festival-win32.zip` を解凍したディレクトリーに移動します。
2. テキスト・エディターで `server¥festival¥config¥doorsRedirector.properties` を開きます。
3. インターフェース・サービスを提供するデータベース・サーバーと一致するように、`doors.url.prefix` 値を `doors://host:port/` の形式で設定します。ここで、`host` は Rational DOORS データベース・サーバー・マシンの名前、`port` は、このマシンが使用するポート番号です（通常、36677）。

注 この値の最後の `/` は、削除しないでください。

4. インターフェース・サービス・サーバーと一致するように、`dwa.url.prefix` 値を `http://host:port/dwa/` の形式で設定します。ここで、`host` はインターフェース・サービス・サーバー・マシンの名前、`port` は、このマシンが使用するポート番号です（通常、8080）。

注 この値の最後の / は、削除しないでください。

5. オプション :

- `<entry key="dwa.enable">>false</entry>` を設定して、**Redirector Service** からインターフェース・サービスへの転送を無効にします。
- `<entry key="doors.enable">>false</entry>` を設定して、**Redirector Service** から **Rational DOORS** への転送を無効にします。

6. ファイルを保存して閉じます。

7. テキスト・エディターで `server¥festival¥config¥festival.xml` を開きます。

8. `<f:property name="published.url.prefix"` で始まる行を探します。

9. `MYHOSTNAME` を、**Redirector Service** をインストールしたマシンの名前に変更し、ファイルを保存して閉じます。

注 この値の最後の / は、削除しないでください。

10. 生成される URL が **Redirector Service** を参照するように、`doorsd` を起動し、**Rational DOORS** データベース・サーバーを構成します。データベース・サーバー・インストールの `bin` ディレクトリーで、次のコマンドを実行します。

```
dbadmin -data port@host -urlPrefix http://yourdwaserver:port/doors/redirector
```

ここで、`yourdwaserver` はインターフェース・サービス・サーバー・マシンの名前で、`port` は、このマシンが使用するポート番号です (通常、8080)。

11. インターフェース・サービスのコンポーネントを再起動します。

情報セキュリティに関する注意

インターフェース・サービスのデフォルトのデプロイでは、スタックを介して安全性の低い通信プロトコルを使用しています。

システムは、ブラウザとインターフェース・サービス・サーバー間の通信を保護するために **HTTPS** の使用をサポートしていますが、現在は、複数のサーバー側コンポーネント間の安全な通信に対するサポートはありません。

システムのシャット・ダウン

システムをシャット・ダウンするには、次のプロセスを停止する必要があります。

1. `server.shutdown.bat` を実行して、インターフェース・サービス・サーバーを停止します。このファイルは、インターフェース・サービス・サーバーをホストしているマシン上で `festival-win32.zip` を解凍したディレクトリーにあります。
- 「close window」 オプションを使用して Interoperation Server を停止します。
- Windows の「コントロール パネル」を使用して、Rational DOORS データベース・サーバーを停止します。
- `broker.shutdown.bat` を実行して、インターフェース・サービス・ブローカーを停止します。このファイルは、インターフェース・サービス・ブローカーをホストしているマシン上で `festival-win32.zip` を解凍したディレクトリーにあります。このプロセスが終了するまでに（15 から 30 秒）の時間がかかることがあり、シャット・ダウンのときにソケット警告が報告されることがあります。

同じマシンでのインターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access の実行

注 ここでは、既にインターフェース・サービス、Interoperation Server、Rational DOORS クライアント、Rational DOORS データベース・サーバー、および Rational DOORS Web Access をインストールし、構成しているものとします。

インターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access を同じマシンで実行しようと計画している場合は、追加のタスクを完了する必要があります。

インターフェース・サービス・サーバー・ポートをリセットし、いくつかのインターフェース・サービスおよび Rational DOORS Web Access コンポーネントを起動してから停止して、新しい値を取り込みます。

- インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット
- コンポーネントの起動と停止

インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット

conf サブディレクトリーの server.xml ファイルにあるポート番号をリセットする必要があります。

1. ファイルに移動します。
2. ファイルを開きます。
3. Shutdown と Start のポート番号を変更します。
4. Shutdown ポート番号を変更するには、次の行のポート番号を変更します。

```
<Server port="8005" shutdown="SHUTDOWN">
```

5. Start ポート番号を変更するには、次の行に移動します。

```
<!-- Define a non-SSL HTTP/1.1 Connector on port 8080 -->
```

6. 次の行のポート番号を変更します。

```
<Connector port="8080"
```

7. ファイルを保存します。

コンポーネントの起動と停止

次のコンポーネントを起動してから停止する必要があります。

- Rational DOORS Web Access ブローカー
- Interoperation Server
- Rational DOORS Web Access サーバー
- インターフェース・サービス・サーバー

Rational DOORS Web Access ブローカーの起動と停止

1. broker.start.bat を実行し、Rational DOORS Web Access ブローカーを起動します。このファイルは、Rational DOORS Web Access をインストールしたときに、festival-win32.zip を解凍したディレクトリーにあります。
2. broker.shutdown.bat を実行し、Rational DOORS Web Access ブローカーを停止します。このファイルは、broker.start.bat と同じディレクトリーにあります。

Interoperation Server の起動と停止

1. 次の形式でコマンド・ライン属性を使用して、Interoperation Server を実行して起動します。

```
doors.exe ñinterop ñdata port@myserver ñbrokerHost myBroker  
ñbrokerPort
```

ここで、

- `port` は Rational DOORS データベース・サーバーが使用しているポート番号で、`myserver` は、Rational DOORS データベース・サーバーがインストールされているマシンの名前を表します。
 - `myBroker` は、ブローカーをホストしているマシンの名前です。
 - `brokerport` は、ブローカーが使用しているポートで、デフォルトは 61616 です。
2. 「close window」オプションを使用して Interoperation Server を停止します。

Rational DOORS Web Access サーバーの起動と停止

1. `server.start.bat` を実行し、Rational DOORS Web Access サーバーを起動します。このファイルは、Rational DOORS Web Access をインストールしたときに、`festival-win32.zip` を解凍したディレクトリにあります。
2. `server.shutdown.bat` を実行し、Rational DOORS Web Access サーバーを停止します。このファイルは、`server.start.bat` と同じディレクトリにあります。

インターフェース・サービス・サーバーの起動と停止

1. `server.start.bat` を実行して、インターフェース・サービス・サーバーを起動します。このファイルは、インターフェース・サービスをインストールしたときに、`festival-win32.zip` を解凍したディレクトリにあります。
2. `server.shutdown.bat` を実行して、インターフェース・サービス・サーバーを停止します。このファイルは、`server.start.bat` と同じディレクトリにあります。

インターフェース・サービスのアンインストール

システムからインターフェース・サービスをアンインストールするには、次の指示に従います。

- festival ディレクトリーを削除して、インターフェース・サービス・サーバーをアンインストールします。
- festival ディレクトリーを削除して、インターフェース・サービス・ブローカーをアンインストールします。
- Windows の「コントロール パネル」で「プログラムの追加と削除」を使用して、Interoperation Server および Rational DOORS データベース・サーバーをアンインストールします。

9

Solaris への *Rational DOORS* サーバー・ インターフェース・サービスのインス トール

この章では、次の内容について説明します。

- 概要
- インターフェース・サービスのコンポーネント
- Rational DOORS データベース・サーバーのインストール
- Interoperation Server のインストール
- インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーのインストール
- システムの起動
- システムのシャット・ダウン
- 同じマシンでのインターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access の実行
- インターフェース・サービスのアンインストール

概要

Rational DOORS のデータベース・サーバーのインストール中に、Rational DOORS サーバーのインターフェース・サービスをインストールするかどうかを確認するプロンプトが表示されます。「y」を入力すると、Rational DOORS データベース・サーバーと Rational DOORS サーバー・インターフェース・サービス（インターフェース・サービス）の両方がインストールされます。これにより、Rational DOORS は、選択した統合製品とインターフェースをとることができます。

この章では、Solaris マシンにインターフェース・サービスをインストールし、設定する方法について説明します。

Rational DOORS データベース・サーバーのみをインストールする場合は、この章を省略して、47 ページの『Rational DOORS データベース・サーバーのインストール』の手順に従ってください。

インターフェース・サービスのコンポーネント

インターフェース・サービスのインストールには、多数の個別のコンポーネントのインストールが含まれます。これらのコンポーネントはマシンにコピーされます。

コンポーネント	説明
Interface サービス・サーバー	<p>Apache Tomcat の適合。Tomcat は Java サブレットを実行し、JavaServer Pages のコードが含まれている Web ページをレンダリングするアプリケーション・サーバーです。</p> <p>Rational で提供される Tomcat の適合バージョンを、Rational DOORS のインターフェース・サービスでバンドルされているコンポーネントの 1 つとして実行する必要があります。</p>
Interface サービス・ブローカー	<p>Apache ActiveMQ の適合。ActiveMQ はオープン・ソースのメッセージ・ブローカーで、Java Message Service (JMS) を実装しています。</p> <p>このブローカーは、Rational DOORS のインターフェース・サービスでバンドルされているコンポーネントの 1 つとして、Rational で提供されます。</p>
Rational DOORS データベース・サーバー	<p>アクセスしようとするデータは、Rational DOORS データベース・サーバーに格納されています。</p>
Interoperation Server	<p>-interop コマンド・ライン・パラメーターを使用して実行する、Rational DOORS のクライアント。</p>

インターフェース・サービスを実行するには、これらのコンポーネントをインストールする必要があります。コンポーネントをインストールするには、以下のトピックの指示に従います。

Rational DOORS データベース・サーバーのインストール

Rational DOORS データベース・サーバーをインストールするには

1. 47 ページの『Rational DOORS データベース・サーバーのインストール』のステップ 1 からステップ 9 に従います。
2. 次の手順に従って、画面上のプロンプトに答えます。
 - a. DVD-ROM デバイス、または Rational DOORS ディストリビューションへのパスを入力します。
[/cdrom]
 - b. 2 番目のプロンプトに対して、次のように「y」と入力して、Rational DOORS データベース・サーバーをインストールします。
Install package DOORS_SERVER [y]:y
 - c. 47 ページの『Rational DOORS データベース・サーバーのインストール』のステップ 6 で作成した Rational DOORS のホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
 - d. プロンプトに対して、次のように「y」と入力します。
Install DOORS SERVER Interface Services [n]:y
これで、インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーが含まれている festival-sol.zip ファイルがマシンにコピーされます。このファイルを解凍して、後でインストールします。
 - e. Rational DOORS の所有者の名前（デフォルトは doors）を入力します。
 - f. このサーバーのインストールを確定します。
 - g. 次に、インストール・スクリプトは、すべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。インストールが完了したら、**Enter** キーを押します。
3. Rational DOORS の所有者のスタートアップ・ファイルを編集します。

次の表に、追加または編集が必要な行を示します。

スタートアップ・ファイル	コード
Bourne シェルまたは K シェル 「.profile」	DOORSHOME=doors-home-path [SERVERDATA=datapath PATH=\$DOORSHOME/bin:\$PATH PORTNUMBER=database-server-port-number export DOORSHOME SERVERDATA PATH PORTNUMBER DOORSDATA
C シェル 「.login」	setenv DOORSHOME doors-home-path setenv SERVERDATA datapath set path=(\$DOORSHOME/bin \$path) setenv PORTNUMBER database-server-port-number

4. Rational DOORS データベース・サーバーを起動します。
 - a. Rational DOORS の所有者のユーザーとしてログインします。
 - b. 作業ディレクトリーを \$DOORSHOME/bin に変更します。
 - c. 以下のコマンドを入力します。

```
./doorsd &
```

注 Korn シェルを使用し、かつシステムのスタートアップスクリプトで「"doorsd &"」を使用していない場合は、上のコマンドに代わって次のコマンドを実行する必要があります。

```
"nohup doorsd &"
```

Interoperation Server のインストール

Solaris システムでインターフェース・サービスを実行するには、Interoperation Server をインストールする必要があります。

Interoperation Server をインストールするには

1. Interoperation Server を実行するマシンに **solaris.zip** をコピーし、root としてログインします。
2. インストール用のホーム・ディレクトリーを作成します。
3. Interoperation Server のファイルを所有するために、非特権アカウントを作成します。このユーザーは doors と呼ばれます。

4. **solaris.zip** ファイルが含まれているディレクトリーへ移動し、次のようにしてこのファイルを解凍します。

```
unzip solaris.zip
```

5. インストーラが含まれているディレクトリーへ移動し、次のようにしてインストーラを実行します。

```
cd unix/bin
```

6. 次のようにしてインストーラを実行します。

```
./instdoor.sh
```

このファイルを使用して、**Interoperation Server** をインストールします。

7. 次の手順に従って、画面上のプロンプトに答えます。
 - a. CD-ROM デバイスへのパス、または **Rational DOORS** ディストリビューションへのパスを入力します。
 - b. **Interoperation Server** をインストールすることを確定します。
 - c. ステップ 2 で作成したホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
 - d. 「y」と入力して、インターフェース・サービスをインストールすることを確認します。これで、インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーが含まれている **festival-sol.zip** ファイルがマシンにコピーされます。このファイルを解凍して、後でインストールします。
 - e. ステップ 3 で設定した **Rational DOORS** の所有者の名前を入力します。
 - f. インストールのタイプを確認します。「一般」および「Solaris」の両方のインストールを選択します。
8. 次に、インストール・スクリプトは、すべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。
9. インストールが完了したら、**Enter** キーを押します。**Interoperation Server** のファイルを所有するために作成したアカウント・プロファイルについて、必要な更新が出力に表示されます。

インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーのインストール

インターフェース・サービスのサーバーおよびインターフェース・サービスのブローカーをインストールするには

1. サーバー・インストール・エリアの `interfaces` ディレクトリーにある `festival-sol.zip` ファイルを、インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーをインストールするマシンにコピーします。サーバーとブローカーを別のマシンにインストールする場合は、それぞれのマシンで次の指示を繰り返します。
2. インストールするディレクトリーを決定し、`festival-sol.zip` を解凍してインストールします。
3. ディレクトリー構造内のファイルに適切な権限を設定し、`configure-festival.sh` スクリプトを実行して **JRE** をインストールします。
 - a. `festival` ディレクトリーに移動します。
 - b. 次のようにしてスクリプトを実行します。

```
bash configure-festival.sh
```

注 スクリプトは、**JRE** をインストールしていることをレポートします。これは、対象のディレクトリーに限定された処理であり、システムの他の **Java** インストールには影響しません。

これで、相互に通信するためのコンポーネントが設定できました。指示については、56 ページの『コンポーネントの設定』を参照してください。

注 56 ページの『コンポーネントの設定』のセクションの指示は、**Windows**、**Solaris**、および **Linux** に対して同じですが 1 つだけ例外があります。**Rational DOORS** データベース・サーバーを設定する場合には、`dbadmin` を実行する必要があります。**Solaris** および **Linux** では、`dbadmin` が `$DOORSHOME/bin` ディレクトリーにあります。

複数の **Interoperation Server** を実行する場合は、62 ページの『複数の **Interoperation Server** の実行』を参照してください。

システムの起動

システムを起動するには、次の順序でプロセスを開始します。

1. **Rational DOORS** のファイルを所有しているユーザーとしてログインします。これは、**Interoperation Server** をインストールしたときに作成したユーザーです。
2. ブローカーをホストしているマシンの `festival` ディレクトリーにある `broker.start.sh` を実行し、ブローカーを起動します。
3. **Rational DOORS** データベース・サーバーをホストしているマシンで、次の環境変数を設定します。

```
DOORSHOME=doors-home-path
SERVERDATA=path_to_data_directory
PATH=$DOORSHOME/bin:$PATH
PORTNUMBER=database-server-port-number
export DOORSHOME SERVERDATA PATH PORTNUMBER DOORSDATA
```

注 この `DOORSHOME` 変数は、**Rational DOORS** データベース・サーバーがインストールされている場所に関係します。

4. **Rational DOORS** データベース・サーバーを起動します。
 - a. **Rational DOORS** のファイルを所有しているユーザーとしてログインします。
 - b. 作業ディレクトリーを `$DOORSHOME/bin` に変更します。
 - c. 以下のコマンドを入力します。

```
./doorsd &
```

5. **Interoperation Server** をホストしているマシンで、次の環境変数を設定します。

```
DOORSHOME=doors-home-path
DOORSDATA=36677@myserver
PATH=$DOORSHOME/bin:$PATH
export DOORSHOME PATH DOORSDATA
```

注 データベース・サーバーのインストール・ディレクトリーと **Interoperation Server** のインストール・ディレクトリーが違う場合は、必要なプロファイルの更新が矛盾します。この `DOORSHOME` 変数は、**Interoperation Server** がインストールされている場所に関係します。これは、ステップ 3 で使用した `DOORSHOME` 変数とは違う場合があります。

- d. \$DOORSHOME/bin に移動し、次の形式でコマンド・ライン属性を使用して **Interoperation Server** を実行します。

```
./doors9 -interop űdata port@myserver űbrokerHost  
myBroker űbrokerPort brokerport &
```

ここで、

- `port` は **Rational DOORS** データベース・サーバーが使用しているポート番号で、`myserver` は、**Rational DOORS** データベース・サーバーがインストールされているマシンの名前を表します。
 - `myBroker` は、ブローカーをホストしているマシンの名前です。
 - `brokerport` は、ブローカーが使用しているポートで、デフォルトは **61616** です。
6. サーバーをホストしているマシンの `festival` ディレクトリーにある `server.start.sh` を実行し、インターフェース・サービス・サーバーを起動します。

システムのシャット・ダウン

システムをシャット・ダウンするには、次のプロセスを停止します。

1. `server.shutdown.sh` スクリプトを実行して、インターフェース・サービス・サーバーを停止します。このスクリプトは、`festival` ディレクトリー内にあります。このプロセスが終了するまでに (15 から 30 秒) の時間がかかることがあり、シャット・ダウンのときにソケット警告が報告されることがあります。
2. プロセスを停止して、**Interoperation Server** を停止します。
3. \$DOORSHOME/bin で次のコマンドを使用して、**Rational DOORS** データベース・サーバーを停止します。

```
dbadmin -data port@computer -killserver [-password password]
```
4. `festival` ディレクトリーの `broker.shutdown.sh` スクリプトを実行して、インターフェース・ブローカーを停止します。このプロセスが終了するまでに (15 から 30 秒) の時間がかかることがあり、シャット・ダウンのときにソケット警告が報告されることがあります。

同じマシンでのインターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access の実行

注 ここでは、既にインターフェース・サービス、Interoperation Server、Rational DOORS クライアント、Rational DOORS データベース・サーバー、および Rational DOORS Web Access をインストールし、構成しているものとします。

インターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access を同じマシンで実行しようと計画している場合は、追加のタスクを完了する必要があります。

インターフェース・サービス・サーバー・ポートをリセットし、いくつかのインターフェース・サービスおよび Rational DOORS Web Access コンポーネントを起動してから停止して、新しい値を取り込みます。

- インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット
- コンポーネントの起動と停止

インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット

conf サブディレクトリーの server.xml ファイルにあるポート番号をリセットする必要があります。

1. ファイルに移動します。
2. ファイルを開きます。
3. Shutdown と Start のポート番号を変更します。
4. Shutdown ポート番号を変更するには、次の行のポート番号を変更します。

```
<Server port="8005" shutdown="SHUTDOWN">
```

5. Start ポート番号を変更するには、次の行に移動します。

```
<!-- Define a non-SSL HTTP/1.1 Connector on port 8080 -->
```

6. 次の行のポート番号を変更します。

```
<Connector port="8080"
```

7. ファイルを保存します。

コンポーネントの起動と停止

次のコンポーネントを起動してから停止する必要があります。

- Rational DOORS Web Access ブローカー
- Interoperation Server
- Rational DOORS Web Access サーバー
- インターフェース・サービス・サーバー

Rational DOORS Web Access ブローカーの起動と停止

1. `broker.start.sh` を実行し、Rational DOORS Web Access ブローカーを起動します。このファイルは、Rational DOORS Web Access をインストールしたときに、`festival-sol.zip` を解凍したディレクトリーにあります。
2. `broker.shutdown.sh` を実行し、Rational DOORS Web Access ブローカーを停止します。このファイルは、`broker.start.sh` と同じディレクトリーにあります。

Interoperation Server の起動と停止

1. 次の形式でコマンド・ライン属性を使用して、Interoperation Server を実行して起動します。

```
./doors9 -interop n̄data port@myserver n̄brokerHost  
myBroker n̄brokerPort brokerport &
```

ここで、

- `port` は Rational DOORS データベース・サーバーが使用しているポート番号で、`myserver` は、Rational DOORS データベース・サーバーがインストールされているマシンの名前を表します。
 - `myBroker` は、ブローカーをホストしているマシンの名前です。
 - `brokerport` は、ブローカーが使用しているポートで、デフォルトは 61616 です。
2. プロセスを停止して、Interoperation Server を停止します。

Rational DOORS Web Access サーバーの起動と停止

1. `server.start.sh` を実行し、Rational DOORS Web Access サーバーを起動します。このファイルは、Rational DOORS Web Access をインストールしたときに、`festival-sol.zip` を解凍したディレクトリーにあります。

2. `server.shutdown.sh` を実行し、Rational DOORS Web Access サーバーを停止します。このファイルは、`server.start.sh` と同じディレクトリーにあります。

インターフェース・サービス・サーバーの起動と停止

1. `server.start.sh` を実行して、インターフェース・サービス・サーバーを起動します。このファイルは、インターフェース・サービスをインストールしたときに、`festival-sol.zip` を解凍したディレクトリーにあります。
2. `server.shutdown.sh` を実行して、インターフェース・サービス・サーバーを停止します。このファイルは、`server.start.sh` と同じディレクトリーにあります。

インターフェース・サービスのアンインストール

システムからインターフェース・サービスを削除するには

- `festival` ディレクトリーを削除して、インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーをアンインストールします。
- `$DOORSHOME` を削除して、Interoperation Server および Rational DOORS データベース・サーバーをアンインストールします。

10 *Linux* への *Rational DOORS* サーバー・インターフェース・サービスのインストール

この章では、次の内容について説明します。

- 概要
- インターフェース・サービスのコンポーネント
- *Rational DOORS* データベース・サーバーのインストール
- *Interoperation Server* のインストール
- インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーのインストール
- システムの起動
- システムのシャット・ダウン
- 同じマシンでのインターフェース・サービスと *Rational DOORS Web Access* の実行
- インターフェース・サービスのアンインストール

概要

Rational DOORS のデータベース・サーバーのインストール中に、*Rational DOORS* サーバーのインターフェース・サービスをインストールするかどうかを確認するプロンプトが表示されます。「y」を入力すると、*Rational DOORS* データベース・サーバーと *Rational DOORS* サーバー・インターフェース・サービス（インターフェース・サービス）の両方がインストールされます。これにより、*Rational DOORS* は、選択した統合製品とインターフェースをとることができます。

この章では、*Linux* マシンにインターフェース・サービスをインストールし、設定する方法について説明します。

Rational DOORS データベース・サーバーのみをインストールする場合は、この章を省略して、47 ページの『*Rational DOORS* データベース・サーバーのインストール』の手順に従ってください。

インターフェース・サービスのコンポーネント

インターフェース・サービスのインストールには、多数の個別のコンポーネントのインストールが含まれます。これらのコンポーネントはマシンにコピーされます。

コンポーネント	説明
Interface サービス・サーバー	<p>Apache Tomcat の適合。Tomcat は Java サブレットを実行し、JavaServer Pages のコードが含まれている Web ページをレンダリングするアプリケーション・サーバーです。</p> <p>Rational で提供される Tomcat の適合バージョンを、Rational DOORS のインターフェース・サービスでバンドルされているコンポーネントの 1 つとして実行する必要があります。</p>
Interface サービス・ブローカー	<p>Apache ActiveMQ の適合。ActiveMQ はオープン・ソースのメッセージ・ブローカーで、Java Message Service (JMS) を実装しています。</p> <p>このブローカーは、Rational DOORS のインターフェース・サービスでバンドルされているコンポーネントの 1 つとして、Rational で提供されます。</p>
Rational DOORS データベース・サーバー	<p>アクセスしようとするデータは、Rational DOORS データベース・サーバーに格納されています。</p>
Interoperation Server	<p>-interop コマンド・ライン・パラメーターを使用して実行する、Rational DOORS のクライアント。</p>

インターフェース・サービスを実行するには、これらのコンポーネントをインストールする必要があります。コンポーネントをインストールするには、以下のトピックの指示に従います。

Rational DOORS データベース・サーバーのインストール

Rational DOORS データベース・サーバーをインストールするには

1. 47 ページの『Rational DOORS データベース・サーバーのインストール』のステップ 1 からステップ 9 に従います。
2. 次の手順に従って、画面上のプロンプトに答えます。
 - a. DVD-ROM デバイス、または Rational DOORS ディストリビューションへのパスを入力します。
[/`cdrom`]
 - b. 2 番目のプロンプトに対して、次のように「`y`」と入力して、Rational DOORS データベース・サーバーをインストールします。
`Install package DOORS_SERVER [y]:y`
 - c. 47 ページの『Rational DOORS データベース・サーバーのインストール』のステップ 6 で作成した Rational DOORS のホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
 - d. プロンプトに対して、次のように「`y`」と入力します。
`Install DOORS SERVER Interface Services [n]:y`
これで、インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーが含まれている `festival-linux.zip` ファイルがマシンにコピーされます。このファイルを解凍して、後でインストールします。
 - e. Rational DOORS の所有者の名前（デフォルトは `doors`）を入力します。
 - f. このサーバーのインストールを確定します。
 - g. 次に、インストール・スクリプトは、すべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。インストールが完了したら、**Enter** キーを押します。
3. Rational DOORS の所有者のスタートアップ・ファイルを編集します。

次の表に、追加または編集が必要な行を示します。

スタートアップ・ファイル	コード
Bourne シェルまたは K シェル 「.profile」	DOORSHOME=doors-home-path [SERVERDATA=datapath PATH=\$DOORSHOME/bin:\$PATH PORTNUMBER=database-server-port-number export DOORSHOME SERVERDATA PATH PORTNUMBER DOORSDATA
C シェル 「.login」	setenv DOORSHOME doors-home-path setenv SERVERDATA datapath set path=(\$DOORSHOME/bin \$path) setenv PORTNUMBER database-server-port-number

4. Rational DOORS データベース・サーバーを起動します。
 - a. Rational DOORS の所有者のユーザーとしてログインします。
 - b. 作業ディレクトリーを \$DOORSHOME/bin に変更します。
 - c. 以下のコマンドを入力します。

```
./doorsd &
```

注 Korn シェルを使用し、かつシステムのスタートアップスクリプトで「"doorsd &"」を使用していない場合は、上のコマンドに代わって次のコマンドを実行する必要があります。

```
"nohup doorsd &"
```

Interoperation Server のインストール

Linux システムでインターフェース・サービスを実行するには、Interoperation Server をインストールする必要があります。

Interoperation Server をインストールするには

1. Interoperation Server を実行するマシンに **linux.zip** をコピーし、root としてログインします。
2. インストール用のホーム・ディレクトリーを作成します。
3. Interoperation Server のファイルを所有するために、非特権アカウントを作成します。このユーザーは doors と呼ばれます。

4. **linux.zip** ファイルが含まれているディレクトリーへ移動し、次のようにしてこのファイルを解凍します。

```
unzip linux.zip
```

5. インストーラが含まれているディレクトリーへ移動し、次のようにしてインストーラを実行します。

```
cd unix/bin
```

6. 次のようにしてインストーラを実行します。

```
./instdoor.sh
```

このファイルを使用して、**Interoperation Server** をインストールします。

7. 次の手順に従って、画面上のプロンプトに答えます。
 - a. CD-ROM デバイスへのパス、または **Rational DOORS** ディストリビューションへのパスを入力します。
 - b. **Interoperation Server** をインストールすることを確定します。
 - c. ステップ 2 で作成した **Rational DOORS** のホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
 - d. 「y」と入力して、インターフェース・サービスをインストールすることを確認します。これで、インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーが含まれている **festival-linux.zip** ファイルがマシンにコピーされます。このファイルを解凍して、後でインストールします。
 - e. ステップ 3 で設定した **Rational DOORS** の所有者の名前を入力します。
 - f. インストールのタイプを確認します。「一般」および「Linux」の両方のインストールを選択します。
8. 次に、インストール・スクリプトは、すべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。
9. インストールが完了したら、**Enter** キーを押します。**Interoperation Server** のファイルを所有するために作成したアカウント・プロファイルについて、必要な更新が出力に表示されます。

インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーのインストール

インターフェース・サービスのサーバーおよびインターフェース・サービスのブローカーをインストールするには

1. サーバー・インストール・エリアの `interfaces` ディレクトリーにある `festival-linux.zip` ファイルを、インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーをインストールするマシンにコピーします。サーバーとブローカーを別のマシンにインストールする場合は、それぞれのマシンで次の指示を繰り返します。
2. インストールするディレクトリーを決定し、`festival-linux.zip` を解凍してインストールします。
3. ディレクトリー構造内のファイルに適切な権限を設定し、`configure-festival.sh` スクリプトを実行して **JRE** をインストールします。
 - a. `festival` ディレクトリーに移動します。
 - b. 次のようにしてスクリプトを実行します。

```
bash configure-festival.sh
```

注 スクリプトは、**JRE** をインストールしていることをレポートします。これは、対象のディレクトリーに限定された処理であり、システムの他の **Java** インストールには影響しません。

これで、相互に通信するためのコンポーネントが設定できました。指示については、56 ページの『コンポーネントの設定』を参照してください。

注 56 ページの『コンポーネントの設定』のセクションの指示は、**Windows**、**Solaris**、および **Linux** に対して同じですが 1 つだけ例外があります。**Rational DOORS** データベース・サーバーを設定する場合には、`dbadmin` を実行する必要があります。**Solaris** および **Linux** では、`dbadmin` が `$DOORSHOME/bin` ディレクトリーにあります。

複数の **Interoperation Server** を実行する場合は、62 ページの『複数の **Interoperation Server** の実行』を参照してください。

システムの起動

システムを起動するには、次の順序でプロセスを開始します。

1. **Rational DOORS** のファイルを所有しているユーザーとしてログインします。これは、**Interoperation Server** をインストールしたときに作成したユーザーです。
2. ブローカーをホストしているマシンの `festival` ディレクトリーにある `broker.start.sh` を実行し、ブローカーを起動します。
3. **Rational DOORS** データベース・サーバーをホストしているマシンで、次の環境変数を設定します。

```
DOORSHOME=doors-home-path
SERVERDATA=path_to_data_directory
PATH=$DOORSHOME/bin:$PATH
PORTNUMBER=database-server-port-number
export DOORSHOME SERVERDATA PATH PORTNUMBER DOORSDATA
```

注 この `DOORSHOME` 変数は、**Rational DOORS** データベース・サーバーがインストールされている場所に関係します。

4. **Rational DOORS** データベース・サーバーを起動します。
 - a. **Rational DOORS** のファイルを所有しているユーザーとしてログインします。
 - b. 作業ディレクトリーを `$DOORSHOME/bin` に変更します。
 - c. 以下のコマンドを入力します。

```
./doorsd &
```

5. **Interoperation Server** をホストしているマシンで、次の環境変数を設定します。

```
DOORSHOME=doors-home-path
DOORSDATA=36677@myserver
PATH=$DOORSHOME/bin:$PATH
export DOORSHOME PATH DOORSDATA
```

注 データベース・サーバーのインストール・ディレクトリーと **Interoperation Server** のインストール・ディレクトリーが違う場合は、必要なプロファイルの更新が矛盾します。この `DOORSHOME` 変数は、**Interoperation Server** がインストールされている場所に関係します。これは、ステップ 3 で使用した `DOORSHOME` 変数とは違う場合があります。

- d. `$(DOORSHOME)/bin` に移動し、次の形式でコマンド・ライン属性を使用して **Interoperation Server** を実行します。

```
./doors9 -interop -data port@myserver -brokerHost  
myBroker -brokerPort brokerport &
```

ここで、

- `port` は **Rational DOORS** データベース・サーバーが使用しているポート番号で、`myserver` は、**Rational DOORS** データベース・サーバーがインストールされているマシンの名前を表します。
 - `myBroker` は、ブローカーをホストしているマシンの名前です。
 - `brokerport` は、ブローカーが使用しているポートで、デフォルトは **61616** です。
6. サーバーをホストしているマシンの `festival` ディレクトリーにある `server.start.sh` を実行し、インターフェース・サービス・サーバーを起動します。

システムのシャット・ダウン

システムをシャット・ダウンするには、次のプロセスを停止します。

1. `server.shutdown.sh` スクリプトを実行して、インターフェース・サービス・サーバーを停止します。このスクリプトは、`festival` ディレクトリー内にあります。このプロセスが終了するまでに (15 から 30 秒) の時間がかかることがあり、シャット・ダウンのときにソケット警告が報告されることがあります。
2. プロセスを停止して、**Interoperation Server** を停止します。
3. `$(DOORSHOME)/bin` で次のコマンドを使用して、**Rational DOORS** データベース・サーバーを停止します。

```
dbadmin -data port@computer -killserver [-password password]
```
4. `festival` ディレクトリーの `broker.shutdown.sh` スクリプトを実行して、インターフェース・ブローカーを停止します。このプロセスが終了するまでに (15 から 30 秒) の時間がかかることがあり、シャット・ダウンのときにソケット警告が報告されることがあります。

同じマシンでのインターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access の実行

注 ここでは、既にインターフェース・サービス、Interoperation Server、Rational DOORS クライアント、Rational DOORS データベース・サーバー、および Rational DOORS Web Access をインストールし、構成しているものとします。

インターフェース・サービスと Rational DOORS Web Access を同じマシンで実行しようと計画している場合は、追加のタスクを完了する必要があります。

インターフェース・サービス・サーバー・ポートをリセットし、いくつかのインターフェース・サービスおよび Rational DOORS Web Access コンポーネントを起動してから停止して、新しい値を取り込みます。

- インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット
- コンポーネントの起動と停止

インターフェース・サービス・サーバーのポートのリセット

conf サブディレクトリーの server.xml ファイルにあるポート番号をリセットする必要があります。

1. ファイルに移動します。
2. ファイルを開きます。
3. Shutdown と Start のポート番号を変更します。
4. Shutdown ポート番号を変更するには、次の行のポート番号を変更します。

```
<Server port="8005" shutdown="SHUTDOWN">
```

5. Start ポート番号を変更するには、次の行に移動します。

```
<!-- Define a non-SSL HTTP/1.1 Connector on port 8080 -->
```

6. 次の行のポート番号を変更します。

```
<Connector port="8080"
```

7. ファイルを保存します。

コンポーネントの起動と停止

次のコンポーネントを起動してから停止する必要があります。

- Rational DOORS Web Access ブローカー
- Interoperation Server
- Rational DOORS Web Access サーバー
- インターフェース・サービス・サーバー

Rational DOORS Web Access ブローカーの起動と停止

1. `broker.start.sh` を実行し、Rational DOORS Web Access ブローカーを起動します。このファイルは、Rational DOORS Web Access をインストールしたときに、`festival-linux.zip` を解凍したディレクトリーにあります。
2. `broker.shutdown.sh` を実行し、Rational DOORS Web Access ブローカーを停止します。このファイルは、`broker.start.sh` と同じディレクトリーにあります。

Interoperation Server の起動と停止

1. 次の形式でコマンド・ライン属性を使用して、Interoperation Server を実行して起動します。

```
./doors9 -interop -data port@myserver -brokerHost  
myBroker -brokerPort brokerport &
```

ここで、

- `port` は Rational DOORS データベース・サーバーが使用しているポート番号で、`myserver` は、Rational DOORS データベース・サーバーがインストールされているマシンの名前を表します。
 - `myBroker` は、ブローカーをホストしているマシンの名前です。
 - `brokerport` は、ブローカーが使用しているポートで、デフォルトは 61616 です。
2. プロセスを停止して、Interoperation Server を停止します。

Rational DOORS Web Access サーバーの起動と停止

1. `server.start.sh` を実行し、Rational DOORS Web Access サーバーを起動します。このファイルは、Rational DOORS Web Access をインストールしたときに、`festival-linux.zip` を解凍したディレクトリーにあります。
2. `server.shutdown.sh` を実行し、Rational DOORS Web Access サーバーを停止します。このファイルは、`server.start.sh` と同じディレクトリーにあります。

インターフェース・サービス・サーバーの起動と停止

1. `server.start.sh` を実行して、インターフェース・サービス・サーバーを起動します。このファイルは、インターフェース・サービスをインストールしたときに、`festival-linux.zip` を解凍したディレクトリーにあります。
2. `server.shutdown.sh` を実行して、インターフェース・サービス・サーバーを停止します。このファイルは、`server.start.sh` と同じディレクトリーにあります。

インターフェース・サービスのアンインストール

システムからインターフェース・サービスを削除するには

- `festival` ディレクトリーを削除して、インターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーをアンインストールします。
- `$DOORSHOME` を削除して、Interoperation Server および Rational DOORS データベース・サーバーをアンインストールします。

11

Rational DOORS for HP Quality Center Interface のインストール

この章では、Rational DOORS for HP Quality Center Interface バージョン 3.4 をインストールし、Rational DOORS 9.2 と統合できるよう構成する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- インストール・オプションについて
- 旧バージョンの Integration からのアップグレード
- Integration Server のインストール
- Integration Client のインストール
- Administration Console のインストール
- バージョン 3.1 データのアップグレード
- Integration のアンインストール

インストール・オプションについて

Integration インストーラーには、以下の 2 つのインストール・オプションがあります。

- Integration Client

統合を使用する必要があるそれぞれの Rational DOORS クライアントに、統合クライアントをインストールします。このオプションにより、Rational DOORS ユーザーは、Rational DOORS クライアントで使用可能な統合オプションにアクセスできます。

- Integration Server

このオプションでは、Integration Server と Integration Client の両方がインストールされます。

旧バージョンの Integration からのアップグレード

次のセクションでは、旧バージョンからバージョン 3.4 にアップグレードするために必要な事項を説明します。

- バージョン 1.8 からのアップグレード
- バージョン 3.0 からのアップグレード

- バージョン 3.1 からのアップグレード
- バージョン 3.2 および 3.3 からのアップグレード

バージョン 1.8 からのアップグレード

1. データを移行します。
バージョン 1.8 をアンインストールする前に、データを同期化する必要があります。
2. Windows の「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を使用して、バージョン 1.8 をアンインストールします。
3. バージョン 3.1 をインストールします。
バージョン 3.1 のインストール後に、それを設定または実行する必要はありませんが、バージョン 3.4 をインストールする前に、バージョン 3.1 をインストールする必要があります。
4. バージョン 3.4 をインストールして 3.1 のデータを 3.4 に移行します。
バージョン 3.1 から 3.4 へのデータの移行については、106 ページの『バージョン 3.1 データのアップグレード』を参照してください。

バージョン 3.0 からのアップグレード

TestDirector Integration バージョン 3.0 がインストールされているマシンで、バージョン 3.1 をインストールしてからバージョン 3.4 をインストールし、3.1 のデータを 3.4 に移行します。

バージョン 3.1 から 3.4 へのデータの移行については、106 ページの『バージョン 3.1 データのアップグレード』を参照してください。

バージョン 3.1 からのアップグレード

バージョン 3.1 からバージョン 3.4 へ直接移行できます。

TestDirector Integration バージョン 3.1 がインストールされているマシンにバージョン 3.4 をインストールし、3.1 のデータを 3.4 に移行します。

バージョン 3.1 から 3.4 へのデータの移行については、106 ページの『バージョン 3.1 データのアップグレード』を参照してください。

バージョン3.2 および3.3 からのアップグレード

Rational DOORS for HP Quality Center Interface には、バージョン 3.2 および 3.3 からのアップグレードおよび移行を可能にする移行ツールが含まれています。

Integration Server のインストール

Integration Server をアップグレードする場合は、バージョン 3.4 へアップグレードする方法の詳細について 97 ページの『旧バージョンの Integration からのアップグレード』を参照してください。

インストーラーの実行

Integration Server をインストールするには

1. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な Rational DOORS for HP Quality Center Interface の README ファイルを参照してください。
2. バージョン 3.2 または 3.3 を実行している場合は、アンインストールします。
3. 管理者権限を持っているユーザーとしてコンピューターにログオンしていることを確認します。
4. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。特に、Microsoft Office ツールバーも含め、Microsoft Office アプリケーションのシャットダウンを忘れないでください。
5. 「Internet Services Manager」内のデフォルトの Web サイトが開始していることを確認します。開始していない場合は、右クリックして「開始」を選択します。
6. Windows エクスプローラーを使用して、「**setup.exe**」をダブルクリックします。

「ようこそ」画面が表示されます。

「**Modify/Repair/Remove**」ダイアログ・ボックスが表示されたら、インストーラーを終了し、Windows の「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を使用して、インストールを変更します。

注 .NET Framework v2.0 がインストーラーによって検出されない場合、ブラウザー・ウィンドウに

Microsoft の .NET Framework ダウンロード ページ
が開きます。続行する前に、.NET Framework をイ
ンストールする必要があります。マシンのリポー
トが必要になる場合があります。

7. 「次へ」をクリックします。
「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。
8. 「合意 (I accept...)」オプションを選択し、次に「次へ」をクリッ
クします。
「宛先場所の選択 (Choose Destination Location)」画面が表示され
ます。
9. インストール先のフォルダーへのパスを入力するか、デフォルト
のまま使用します。
10. 「次へ」をクリックします。
「セットアップの種類 (Setup Type)」画面が表示されます。
11. 「サーバー」を選択し、「次へ」をクリックします。

注 このオプションでは、Integration Client と
Integration Server の両方がインストールされます。

「Integration Server TCP ポート (Integration Server TCP Port)」
画面が表示されます。

12. Internet Information Service がデフォルトの Web サイトをサービス
する TCP ポートを入力します。
ポート番号を知るには
 - a. デスクトップの「マイ コンピュータ」を右クリックして、「管
理」を選択します。
「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。
 - b. 「サービスおよびアプリケーション (Services and
Applications)」 > 「Internet Information Service (IIS) マネー
ジャー (Internet Information Service (IIS) Manager)」 > 「Web
サイト」に移動します。
 - c. デフォルトの Web サイトを右クリックして、「プロパティ」
を選択します。
「Web サイト ID (Web Site Identification)」パネルに「TCP ポー
ト (TCP Port)」が表示されます。

13. 「次へ」をクリックします。
「ドメイン #Groupname の入力 (Enter Domain #Groupname)」画面が表示されます。
14. Administration Console へのアクセスが許可される完全修飾グループ名を入力します。Domain は、Integration Server のインストール先マシンの名前で、Groupname は必要な権限を持っているグループの名前です (例: QCI_Server¥QCI_Admin_Console_Users)。
グループを作成する必要がある場合は、「コンピュータの管理」ウィンドウを使用します。
15. 「次へ」をクリックします。
「プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。
16. 「インストール」をクリックします。
必要なファイルがマシンにインストールされます。
注 IIS がインストールされていない場合、以下のエラーが表示されます。「異常終了」をクリックし、IIS をインストールしてから、Integration Server を再インストールします。
17. 「完了」をクリックします。
インストール・ウィザードが閉じます。

Configuration Tool の実行

作業を進める前に、Integration Server を設定する必要があります。

Integration Server を設定するには

1. 「コンピューター管理」がまだ開いている場合はシャットダウンします。
2. 「開始」メニューから、「IBM Rational」>「IBM Rational Lifecycle Solution Tools」>「IBM Rational DOORS Quality Center Integration 3.4 Tools」>「アクセス権限の設定」の順に選択します。
「Rational DOORS for HP Quality Center Interface Configuration Tool」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「ユーザー名」にユーザーを入力します。

デフォルトでは、このツールでは IWSUSER という名前のローカル・マシン・ユーザーが使用されます。ただし、代わりにドメイン・ユーザーを指定できます。このツールでドメイン・ユーザーを作成することはできませんが、ドメイン・ユーザーが存在している場合はここで指定できます。

- IWSUSER というユーザーを指定する場合、または作成する場合は、「<machinename>¥IWSUSER」と入力します。
 - IWSUSER という名前のユーザーが既に存在する場合は、チェック・ボックスをクリアのままにしておきます。
 - IWSUSER という名前のユーザーが存在しない場合は、チェック・ボックスを選択します。
 - ドメイン・ユーザーを指定する場合は、「<domainname>¥<user name>」と入力し、チェック・ボックスをクリアのままにしておきます。
4. 「パスワード」および「パスワードの確認」ボックスにパスワードを入力します。
- IWSUSER が存在する場合は、ユーザーの既存のパスワードを入力します。
 - IWSUSER が存在しない場合は、新しいパスワードを入力します。
- このパスワードには、そのシステムで適用されている Windows 2003 のパスワード規則が適用されます。
5. 「次へ」をクリックします。
- 「仮想フォルダー構造の収集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
6. サービスをホストしている Web サイトの名前を入力するか、デフォルトの値を確定します。
7. 「Tivoli Directory Integrator サービス」と「SOQ サービス」に仮想フォルダーがある場所へのパスを入力するか、デフォルトのまま使用します。
8. 「次へ」をクリックします。
- 「構成の適用」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 警告ダイアログ・ボックスも表示されます。
9. 「はい」をクリックします。すべてのカテゴリーが正しく設定されたら、「次へ」をクリックします。
- 概要の画面が表示されます。

- 「コピー」ボタンを使用すると概要のテキストをコピーできます。
10. 「次へ」をクリックします。
「サービスのテスト」ダイアログ・ボックスが表示されます。
「コピー」ボタンを使用すると結果のテキストをコピーできます。
 11. 「テストの実行 (Run Tests)」を選択し、サービスを使用可能かどうかをテストします。
 12. 必要に応じて、99 ページの『インストーラーの実行』のステップ 14 で作成したグループに IWSUSER を追加します。
 13. Quality Center に移動してログインし、ActiveX コンポーネントをダウンロードします。
 14. 「完了」をクリックします。

Integration Client のインストール

Integration Server をインストールしたら、Integration にアクセスする Rational DOORS および Quality Center クライアント・マシンに Integration Client をインストールできます。

Integration Client をインストールするには

1. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な Rational DOORS for HP Quality Center Interface の README ファイルを参照してください。
2. 管理者権限を持っているユーザーとしてコンピューターにログオンしていることを確認します。
3. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。特に、Microsoft Office アプリケーションのシャットダウンを忘れないでください。
4. Windows エクスプローラーを使用して、「**setup.exe**」をダブルクリックします。
「よろこそ」画面が表示されます。
「**Modify/Repair/Remove**」ダイアログ・ボックスが表示されたら、インストーラーを終了し、Windows の「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を使用して、インストールを変更します。

5. 「次へ」をクリックします。
「ご使用条件 (License Agreement)」画面が表示されます。
6. 「合意 (I accept...)」オプションを選択し、次に「次へ」をクリックします。
「宛先場所の選択 (Choose Destination Location)」画面が表示されます。
7. インストール先のフォルダーへのパスを入力するか、デフォルトのままにして、「次へ」をクリックします。
「セットアップの種類 (Setup Type)」画面が表示されます。
8. 「クライアント」を選択し、「次へ」をクリックします。
「Integration Server の場所の指定 (Specify the Location of Integration Server)」画面が表示されます。
9. 「IP アドレス」に、Integration Server がインストールされているマシンの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを入力します。
10. 「TCP ポート (TCP Port)」に、Integration Administration Service が Integration Server マシン上のデフォルトの Web サイトをサービスする TCP ポートを入力します。これは Integration Server のインストールのステップ 12 で入力した TCP ポートです。
11. 「次へ」をクリックします。
「プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。
12. 「インストール」をクリックします。
このファイルのインストール時には、進行状況表示バーが表示されます。
13. 「完了」をクリックします。

Administration Console のインストール

Administration Console をインストールするには

1. .NET Framework v2.0 と v3.0 の両方がインストールされていることを確認します。
2. インターネット・ブラウザを開き、
「<http://<integrationserver>/AdminToolInstall>」と入力します。
Administration Console のインストールのウェルカム・ページが表示されます。

3. .NET Framework をインストールする必要がある場合は、ここでインストールします。

注 .NET Framework はバックグラウンドでインストールされます。インストールを進める前にこれを確実にインストールしてください。タスクバーの通知領域に .NET のアイコンが表示されます。

4. Administration Console インストーラーを実行します。

「**setup**」をクリックします。

5. Administration Console をローカル・マシンからインストールする場合は、「**保存**」を選択してから、「**setup.exe**」ファイルをダブルクリックします。Administration Console をネットワークからインストールする場合は、「**実行**」を選択します。

「ようこそ」画面が表示されます。

6. 「**次へ**」をクリックします。

「**ご使用条件 (License Agreement)**」画面が表示されます。

7. ライセンス合意の諸条件を受け入れ、「**はい**」をクリックします。「**宛先場所の選択 (Choose Destination Location)**」画面が表示されます。

8. インストール先のフォルダーへのパスを入力するか、デフォルトのままにして、「**次へ**」をクリックします。

「**プログラムのインストールの準備ができました (Ready to Install the Program)**」画面が表示されます。

9. 「**インストール**」をクリックします。

このファイルのインストール時には、進行状況表示バーが表示されます。

10. 「**完了**」をクリックします。

11. Administration Console を起動します。

「**開始**」メニューから、「**IBM Rational**」>「**IBM Rational Lifecycle Solution Tools**」>「**IBM Rational DOORS Quality Center Integration 3.4 Tools**」>「**管理ツール**」の順に選択します。

バージョン 3.1 データのアップグレード

バージョン 3.1 のデータをバージョン 3.4 にアップグレードするには

1. Web Services をシャットダウンします。
2. 移行ツールを実行します。
「開始」メニューから、「IBM Rational」>「IBM Rational Lifecycle Solution Tools」>「IBM Rational DOORS Quality Center Integration 3.4 Tools」>「3.1 のデータを 3.4 へ移行」の順に選択します。
3. 3.1 のフォルダーを選択します。
3.1 のデータの場所を入力します。デフォルトでは、このデータは `c:\inetpub\wwwroot\doorstdintegrationwebservices` にあります。
4. 3.4 のフォルダーを選択します。
3.4 のデータの場所を入力します。デフォルトでは、このデータは `c:\inetpub\wwwroot\DOORSTDIServices` にあります。
5. 「移行の実行 (Perform Migration)」をクリックします。
移行が実行されます。
6. Web Services を再起動して移行されたデータを取り込みます。

Integration のアンインストール

Windows の「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」を使用して、Rational DOORS for HP Quality Center Interface のバージョン 3.4 と Administration Console を削除します。

12

Windows 上での Rational DOORS for ClearCase Interface のインストール

この章では、Rational DOORS for ClearCase Interface のバージョン 2.1.1 をインストールして設定し、Rational DOORS 9.2 と統合する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- Rational DOORS for ClearCase Interface のインストール
- Rational DOORS for ClearCase Interface のアンインストール

Rational DOORS for ClearCase Interface のインストール

Rational DOORS for ClearCase Interface のインストール手順は次のとおりです。

1. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な Rational DOORS for ClearCase Interface の README ファイルを参照してください。
2. 管理者権限を持つユーザーとしてではなく、ローカルの管理者としてログオンしていることを確認します。
3. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。特に、Rational DOORS と ClearCase を必ずシャットダウンしてください。
4. インストールは、Rational DOORS Add Ons CD、または Rational の Web サイトからダウンロードしたソフトウェアから行えます。

CD からインストールする場合には、**Rational DOORS Add Ons CD** を CD-ROM ドライブに挿入し、Rational DOORS for ClearCase Interface ソフトウェアを参照して、インストールするためにクリックします。インストーラが実行され、「ようこそ」画面が表示されます。

ソフトウェアを Web サイトからダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルまで移動してダブルクリックします。インストーラが実行され、「ようこそ」画面が表示されます。

5. 次の画面の指示に沿って、インストールを実行します。
6. インストールが完了すると、設定完了画面が表示されます。
7. 「完了」をクリックして設定を終了します。

統合がどのように機能するかについては、弊社の Web サイト www.ibm.com/software/awdtools/doors/support/doc.html から入手可能な「Using Rational DOORS for ClearCase Interface」のマニュアルを参照してください。

Rational DOORS for ClearCase Interface のアンインストール

Windows の「コントロールパネル」から、「アプリケーションの追加と削除」を使用し、Rational DOORS for ClearCase Interface のバージョン 2.1.1 を削除します。

13

Windows 上での Rational DOORS for ClearQuest Interface のインストール

この章では、Rational DOORS for ClearQuest Interface のバージョン 2.2.1 をインストールして設定し、Rational DOORS 9.2 と統合する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- Rational DOORS for ClearQuest Interface のインストール
- Rational DOORS for ClearQuest Interface のアンインストール

Rational DOORS for ClearQuest Interface のインストール

Rational DOORS for ClearQuest Interface のインストール手順は次のとおりです。

1. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な Rational DOORS for ClearQuest Interface の README ファイルを参照してください。
2. 管理者権限を持つユーザーとしてではなく、ローカルの管理者としてログオンしていることを確認します。
3. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。特に、Rational DOORS と ClearQuest を必ずシャットダウンしてください。
4. インストールは、Rational DOORS Add Ons CD、または Rational の Web サイトからダウンロードしたソフトウェアから行えます。

CD からインストールする場合には、**Rational DOORS Add Ons CD** を CD-ROM ドライブに挿入し、Rational DOORS for ClearQuest Interface ソフトウェアを参照して、インストールするためにクリックします。インストーラが実行され、「ようこそ」画面が表示されます。

ソフトウェアを Web サイトからダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルまで移動してダブルクリックします。インストーラが実行され、「ようこそ」画面が表示されます。

5. 次の画面の指示に沿って、インストールを実行します。
6. インストールが完了すると、設定完了画面が表示されます。
7. 「完了」をクリックして設定を終了します。

統合がどのように機能するかについては、弊社の Web サイト www.ibm.com/software/awdtools/doors/support/doc.html から入手可能な「Using Rational DOORS for ClearQuest Interface」のマニュアルを参照してください。

Rational DOORS for ClearQuest Interface のアンインストール

Windows の「コントロールパネル」から、「アプリケーションの追加と削除」を使用し、Rational DOORS for ClearQuest Interface のバージョン 2.2.1 をアンインストールします。

14

Windows マシンへの *Rational DOORS for Rational Rose Interface* のインストール

この章では、Rational DOORS for Rational Rose Interface バージョン 2.10.1 をインストールし、Rational DOORS 9.2 と統合できるように設定する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- Rational DOORS for Rational Rose Interface のインストール
- Rational DOORS for Rational Rose Interface のアンインストール

Rational DOORS for Rational Rose Interface のインストール

Rational DOORS for Rational Rose Interface をインストールする手順は次のとおりです。

1. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な Rational DOORS for Rational Rose Interface の README ファイルを参照してください。
2. 管理者権限を持つユーザーとしてではなく、ローカルの管理者としてログオンしていることを確認します。
3. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。具体的には、Rational DOORS と Rational Rose をシャットダウンします。
4. インストールは、Rational DOORS Add Ons CD、または Rational の Web サイトからダウンロードしたソフトウェアから行えます。

CD からインストールする場合には、**Rational DOORS Add Ons CD** を CD-ROM ドライブに挿入し、Rational DOORS for Rational Rose Interface ソフトウェアを参照して、インストールするためにクリックします。インストーラが実行され、「ようこそ」画面が表示されます。

ソフトウェアを Web サイトからダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルまで移動してダブルクリックします。インストーラが実行され、「ようこそ」画面が表示されます。

5. 次の画面の指示に沿って、インストールを実行します。
6. インストールが完了すると、設定完了画面が表示されます。
7. 「完了」をクリックして設定を終了します。

統合がどのように機能するかについては、弊社の Web サイト www.ibm.com/software/awdtools/doors/support/doc.html から入手可能な「Using Rational DOORS for Rational Rose Interface」のマニュアルを参照してください。

Rational DOORS for Rational Rose Interface のアンインストール

Windows の「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を使用して、Rational DOORS for Rational Rose Interface のバージョン 2.10.1 を削除します。

15

Windows への Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager のインストール

この章では、Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface バージョン 1.4.1 をインストールし、Rational DOORS 9.2 と統合できるように設定する方法について説明します。この章のトピックは、次のとおりです。

- Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface のインストール
- ライセンスの設定
- Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface のアンインストール

Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface のインストール

Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface をインストールする手順は次のとおりです。

1. システム要件を満たしていることを確認します。システム要件の詳細については、弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface の README ファイルを参照してください。
2. 管理者権限を持つユーザーとしてではなく、ローカルの管理者としてログオンしていることを確認します。
3. 他のアプリケーションをすべてシャットダウンします。具体的には、Rational DOORS と Serena PVCS Version Manager をシャットダウンします。
4. インストールは、Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface CD、または Rational の Web サイトからダウンロードしたソフトウェアから行えます。

CD からインストールする場合には、**Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface CD** を CD-ROM ドライブに挿入し、Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface ソフトウェアを参照して、インストールするためにクリックします。インストーラが実行され、「ようこそ」画面が表示されます。

ソフトウェアを Web サイトからダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルまで移動してダブルクリックします。インストーラが実行され、「ようこそ」画面が表示されます。

5. 次の画面の指示に沿って、インストールを実行します。
6. インストールが完了すると、設定完了画面が表示されます。
7. 「完了」をクリックして設定を終了します。

統合がどのように機能するかについては、弊社の Web サイト www.ibm.com/software/awdtools/doors/support/doc.html から入手可能な「Using Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface」のマニュアルを参照してください。

ライセンスの設定

Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface を初めてインストールする、または再インストールする場合、あるいは統合の以前のバージョンからアップグレードする場合は、製品を使用する前に新しいライセンスを依頼し、設定しておく必要があります。ライセンスについては、**Rational Lifecycle Solutions DVD** から、および弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能な「Rational License Server TL ライセンス・ガイド」を参照してください。

Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface のアンインストール

Windows の「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を使用して、Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface バージョン 1.4.1 を削除します。

16

トラブルシューティング

この章では、次の内容について説明します。

- 管理者権限のないユーザーとしての Rational DOORS のインストール
- ソフトウェアのインストールに関する問題
- Word に Rational DOORS へのエクスポート・アイコンが表示されない場合
- Rational DOORS API の使用
- 表示色
- Solaris の DISPLAY 変数
- すべての UNIX インストール上の DISPLAY 変数
- デュアル・ブート・マシン

注 Rational DOORS の製品をインストールし、設定している際に発生する問題の最新情報と対処方法については、Web サイトのサポート・センター (www.ibm.com/software/awdtools/doors/support/doc.html) にアクセスしてください。

管理者権限のないユーザーとしての Rational DOORS のインストール

Rational DOORS データベース・サーバーをインストールする場合は、管理者権限を持つユーザーとしてマシンにログオンします。ただし、システム管理者が以下のオプションを使用して管理者権限のないユーザーを設定した場合は、管理者権限のないユーザーでも Rational DOORS クライアントをインストールできます。

- Windows 2003 において、インストールを開始するユーザーは先に impersonate 権限が許可されている必要があります。
 - a. 「開始」 > 「すべてのプログラム」 > 「管理ツール」 > 「ローカルセキュリティポリシー」をクリックします。
 - b. 「ローカルポリシー」を展開し、「ユーザー権利の割り当て」をクリックします。

- c. 右ペインにある「**認証後にクライアントを偽装**」をダブルクリックします。
 - d. 「**ローカルセキュリティ ポリシーの設定**」ダイアログ・ボックスの「**ユーザーまたはグループの追加**」をクリックします。
 - e. 「**ユーザーまたはグループの選択**」ダイアログ・ボックスで、適切なユーザー・アカウントを追加して、「**OK**」をクリックします。
 - f. [**OK**] をクリックします。
- 管理者権限を持たないユーザーが Rational DOORS クライアントをインストールする必要がある場合、グループ・ポリシーで「**常にシステム特権でインストールする**」ポリシーを有効にする必要があります。
 - 以前のバージョンの Rational DOORS をアップグレードする場合には、Rational DOORS 9.2 をインストールする前に、Windows の「コントロール・パネル」の「**アプリケーションの追加と削除**」から以前のバージョンを削除する必要があります。

ソフトウェアのインストールに関する問題

Rational DOORS 製品ファミリーの製品のインストールで問題が発生した場合は、サポート・チームに連絡をとる前に、以下の解決法を試してください。

- ソフトウェアをインストールする前にすべてのアプリケーションを停止します。
使用しているコンピューター上で動作中の全アプリケーションをシャットダウンします。
- ウィルス除去ソフトウェアをオフにします。
ウィルス除去ソフトウェアがバックグラウンドで実行されていると、ソフトウェア製品のインストールの妨げとなる可能性があります。これは、インストーラーがコンピューター上にファイルをインストールする際のファイルの解凍方法によるものです。
- インストールする製品のシステム要件が満足されていることを確認します。システム要件の詳細は、適切な README ファイルに記載されています。製品の README ファイルは、弊社の Web サイト <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> から入手可能です。

- 使用しているコンピュータを再起動し、Rational DOORS 製品の再インストールを試みます。

Word に Rational DOORS へのエクスポート・アイコンが表示されない場合

「Rational DOORS へエクスポート」ボタンが表示されないのは、Word のスタートアップ・フォルダーの場所を変更したためと考えられます。

このフォルダーを変更または確認するには、「ツール」>「オプション」をクリックします。使用している Word のスタートアップ・フォルダーの場所が「既定のフォルダー」タブの「スタートアップ」項目に表示されます。

この場合は、Rational DOORS ホーム・フォルダーの「%lib%word」フォルダ（たとえば、c:\program files\IBM\Rational\doors\9.2\lib\word）にある「doors.dot」を Word のスタートアップ・フォルダーにコピーします。

Rational DOORS API の使用

Rational DOORS API は、TCP/IP を使用した通信でのみ動作します。UNIX のソケット・ベースの通信はサポートされません。

表示色

使用しているディスプレイ・カードが 256 色しかサポートしていないと、色の表示が見にくくなる場合があります。

Solaris の DISPLAY 変数

Solaris Rational DOORS クライアントは、DISPLAY 環境変数を設定せず、バッチモードで実行できるようになりました。

DISPLAY が定義されていない状態で、バッチ・モードの DXL が GUI を使用しようとする、Rational DOORS が終了します。

DISPLAY が定義されていると、バッチ・モードの DXL が GUI を使用しない場合でも、Rational DOORS は指定された X ディスプレイに接続しようとして、このため、DISPLAY は、接続を許可されている有効な X ディスプレイを参照する必要があります。

すべての UNIX インストール上の DISPLAY 変数

X ディスプレイは、DISPLAY 環境変数で指定される必要がありますが、`-display` または `-d` 標準オプションを使用すると、機能しません。

デュアル・ブート・マシン

デュアル・ブート・マシンを使用しており、どちらかのオペレーティング・システム上に Rational DOORS 9.2 がインストールされている場合、もう一方のオペレーティング・システムにはインストールできません。

17

サポートへのお問い合わせ

この章では、次の内容について説明します。

- IBM Rational ソフトウェア・サポートへのお問い合わせ
- 前提条件
- 問題の処理依頼
- その他の情報

IBM Rational ソフトウェア・サポートへのお問い合わせ

セルフ・ヘルプ・リソースで問題を解決できない場合、IBM Rational ソフトウェア・サポートにお問い合わせ頂き、製品の問題解決の支援を依頼してください。

注 従来からの Telelogic のお客様の場合、<http://support.telelogic.com/toolbar> に移動して、IBM Rational Telelogic ソフトウェア・サポートのブラウザ・ツールバーをダウンロードできます。このツールバーを使用すると、IBM Rational Telelogic 製品オンライン・リソースに簡単に移行できます。また、すべての IBM Rational Telelogic サポート・リソースが、単一の参照サイト <http://www.ibm.com/software/rational/support/telelogic/> で提供されます。

前提条件

お客様の問題を IBM Rational ソフトウェア・サポートに処理依頼するには、アクティブなパスポート・アドバンテージ・ソフトウェア保守契約が必要です。パスポート・アドバンテージは、IBM の総合的なソフトウェア・ライセンスおよびソフトウェア保守（製品アップグレードおよびテクニカル・サポート）製品です。パスポート・アドバンテージには、<http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/howtoenroll.html> からオンラインで登録できます。

- パスポート・アドバンテージの詳細については、http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/brochures_faqs_quickguides.html を参照してください。

- さらに支援が必要な場合には、お客様の IBM 担当員にお問い合わせください。

お客様の問題を（IBM Web サイトから）オンラインで IBM Rational ソフトウェア・サポートに処理依頼するには、さらに以下が必要です。

- IBM Rational ソフトウェア・サポート Web サイトで登録済みユーザーとなること。登録の詳細については、<http://www-01.ibm.com/software/support/> を参照してください。
- サービス要求ツールで、許可された呼び出し元としてリストに記載されていること。

問題の処理依頼

お客様の問題を IBM Rational ソフトウェア・サポートに処理依頼するには

1. 問題のビジネス上の影響を判断します。問題を IBM に報告する際に、重大度レベルを指定するよう求められます。したがって、報告する問題のビジネス上の影響を理解し、評価する必要があります。

以下の表を使用して、重大度レベルを決定してください。

重大度	説明
1	この問題には、 <i>致命的な</i> ビジネス上の影響があります。プログラムを使用できないため、運用に致命的な影響が発生します。この状態は、即時の解決策が必要です。
2	この問題には、 <i>重大な</i> ビジネス上の影響があります。プログラムは使用できますが、厳しく制約されます。
3	この問題には、 <i>軽微な</i> ビジネス上の影響があります。プログラムは使用できますが、（運用上不可欠ではない）重要度の低い機能が使用できません。
4	この問題には、 <i>最小限度の</i> ビジネス上の影響があります。運用に小さな影響が発生するか、または問題に対して合理的な回避策が実装されています。

2. 問題を説明し、バックグラウンド情報を収集します。IBM に対して問題を説明する際には、できるだけ具体的に説明してください。すべての関連したバックグラウンド情報を提示して、IBM Rational ソフトウェア・サポートのスペシャリストが効率的に問題解決を支援できるようにしてください。時間の節約のために、以下の質問に回答を準備してください。
 - 問題の発生時には、どのソフトウェアのバージョンを実行していましたか。

正確な製品名とバージョンを判断するために、お客様に該当するオプションを使用してください。
 - IBM Installation Manager を開始し、「ファイル」>「インストールされたパッケージを表示 (View Installed Packages)」を選択します。パッケージ・グループを展開し、パッケージを選択してパッケージ名とバージョン番号を確認します。
 - お客様の製品を始動し、「ヘルプ」>「製品情報」の順にクリックして、製品名とバージョン番号を確認します。
 - オペレーティング・システムおよびバージョン番号は何ですか (すべての Service Pack またはパッチを含む)。
 - 問題の症状に関連するログ、トレース、およびメッセージは存在しますか。
 - 問題を再現できますか。その場合、どのような手順で問題を再現できますか。
 - システムに何らかの変更を行いましたか。例えば、ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーク・ソフトウェア、または他のシステム・コンポーネントに何らかの変更を行いましたか。
 - 現在、問題の回避策を何か実行していますか。その場合、問題を報告する際に、回避策の説明を準備してください。
3. お客様の問題を、IBM Rational ソフトウェア・サポートに処理依頼します。IBM Rational ソフトウェア・サポートへの問題の処理依頼は、以下の方法で行うことができます。
 - オンライン :IBM Rational ソフトウェア・サポートの Web サイト (<https://www.ibm.com/software/rational/support/>) に移動し、Rational サポート・タスク・ナビゲーターで、「サービス要求のオープン (Open Service Request)」をクリックします。電子問題報告ツールを選択して「問題管理レコード (PMR)」を開き、お客様独自の表現で問題を正確に説明してください。

サービス要求のオープンの詳細については、
<http://www.ibm.com/software/support/help.html> を参照してください。

また、IBM Support Assistant を使用してオンラインでサービス要求を開くこともできます。詳細については、
<http://www-01.ibm.com/software/support/isa/faq.html> を参照してください。

- **電話** : お客様の国または地域の電話番号については、
<http://www.ibm.com/planetwide/> の IBM ディレクトリーで世界全体の連絡先を参照し、お客様の国または地域の名前をクリックしてください。
- **お客様の IBM 担当員を通して** : オンラインまたは電話で IBM Rational ソフトウェア・サポートにアクセスできない場合、IBM 担当員にお問い合わせください。必要な場合には、お客様のために、IBM 担当員がサービス要求をオープンすることができます。各国の完全な窓口情報については、
<http://www.ibm.com/planetwide/> を参照してください。

処理依頼した問題が、ソフトウェアの欠陥または欠落、または文書の不備による場合には、IBM Rational ソフトウェア・サポートは、プログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には、問題を詳細に記載します。可能な場合には、IBM Rational ソフトウェア・サポートは、APAR が解決され、修正が配信されるまで、お客様が実装可能な回避策を提供します。IBM は、解決された APAR を IBM Rational ソフトウェア・サポートの Web サイトに毎日公開しており、同じ問題が発生している他のユーザーが、同じ解決方法を利用できます。

その他の情報

Rational ソフトウェア製品ニュース、イベント、およびその他の情報については、IBM Rational Software の Web サイト
<http://www.ibm.com/software/rational/> を参照してください。

© Copyright IBM Corporation 1993, 2010

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 242-8502

神奈川県大和市下鶴間 1623 番 14 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software
IBM Corporation
1 Rogers Street
Cambridge, Massachusetts 02142
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願います。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

追加の特記事項が、ご使用のソフトウェア・インストールに含まれる `legal_information.html` ファイルに記載されています。

商標

IBM、IBM ロゴおよび `ibm.com` は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.html をご覧ください。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

索引

記号

.login 50, 76, 88
.profile 50, 76, 88

あ

アップグレード

9.0 より前のバージョンから 33
バージョン 9.0 以降から 27
Rational DOORS for Rational
Quality Manager Interface 16

アンインストール

インターフェース・サービス 71
Rational DOORS for ClearCase
Interface 108
Rational DOORS for ClearQuest
Interface 110
Rational DOORS for HP Quality
Center Interface 106
Rational DOORS for Rational Rose
Interface 112
Rational DOORS for Serena PVCS
Version Manager Interface 114
Windows 上の Rational DOORS 25

い

インストール

管理者権限のないユーザー 115
サンプル・データ 24
自動 21
Administration Console 104
Integration Client 103
Integration Server 99
Linux 上の Interoperation Server
88
Linux 上のインターフェース・
サービス 85

Linux 上のインターフェース・
サービスのサーバーおよびブ
ローカー 90

Rational DOORS クライアント 12
Rational DOORS for ClearCase
Interface 107

Rational DOORS for ClearQuest
Interface 109

Rational DOORS for Rational
Quality Manager Interface 15

Rational DOORS for Rational Rose
Interface 111

Rational DOORS for Serena PVCS
Version Manager Interface 113

RationalDOORS データベース・
サーバー (Windows) 9

Solaris 上の Interoperation Server
76

Solaris 上のインターフェース・
サービス 73

Solaris 上のインターフェース・
サービスのサーバーおよびブ
ローカー 78

UNIX 上の RationalDOORS デー
タベース・サーバー 47

Windows 上の Interoperation Server
56

Windows 上のインターフェー
ス・サービス 53

Windows 上のインターフェー
ス・サービスのサーバーおよ
びブローカー 56

インストールの種類

サンプル・データ 6
Rational DOORS 5

Rational DOORS クライアント 5
Rational DOORS サーバー 6

インターフェース・サービス
インターフェース・サービス・
サーバーの設定 57

上でのアンインストール 71

- インターフェース・サービス・サーバー
 - server.xml 63
 - ポートの構成 63
 - HTTPS の構成 65
 - Linux 上でのアンインストール 95
 - Linux 上での起動 92
 - Linux 上での停止 92
 - RedirectorService 66
 - server.xml 65
 - Solaris 上でのアンインストール 83
 - Solaris 上での起動 80
 - Solaris 上での停止 80
 - Windows 上でのアンインストール 71
 - Windows 上での起動 63
 - Windows 上での停止 68
- server.xml
 - インターフェース・サービス・サーバーのポートの構成 63
- インターフェース・サービス・サーバーと
 - RationalDOORSWebAccess
 - Linux での 93
 - Solaris での 81
 - Windows での 68
- インターフェース・サービス・ブローカー
 - ポートの構成 64
 - activemq.xml 64
 - Linux 上での起動 91
 - Linux 上での停止 92
 - Linux 上でのアンインストール 95
 - Solaris 上でのアンインストール 83
 - Solaris 上での停止 80
 - Windows 上でのアンインストール 71
 - Windows 上での起動 62
 - Windows 上での停止 68
 - Solaris 上での起動 79
- か
 - 環境変数
 - \$DOORSHOME 48
 - DISPLAY 117,118
- き
 - キーストア 65
- さ
 - サンプル・データ
 - アンインストール 25
 - インストール 24
- し
 - 自動インストール 21
- せ
 - セットアップの種類 (Custom)
 - クライアントのインストール 15
 - サーバーのインストール 11
- て
 - データ移行
 - バージョン 5 から 33
 - バージョン 6 から 34
 - バージョン 7 から 34
 - バージョン 8 から 34
 - データの移行
 - バージョン 5 から 33
 - バージョン 6 から 34
 - バージョン 7 から 34
 - バージョン 8 から 34

と

トラブルシューティング 115

ら

ライセンス・オプション 6

A

activemq.xml 64

addins.idx 28

C

Citrix と外部リンク 44

Connector 要素 65

D

dbadmin パスワード 30, 41

DCN

 コマンド 61

 パラメーター 60

F

festival.xml

 インターフェース・サービス・
 ブローカーのポートの構成
 64

 修正 59

 例 58

I

IBM サポート部門へのお問い合わせ
119

Interoperation Server

 複数の Interoperation Server の実
 行 62

 Linux 上でのアンインストール
 95

 Linux 上での稼働 91, 92

 Linux 上での停止 92

 Solaris 上でのアンインストール
 83

 Solaris 上での稼働 79, 80

 Solaris 上での停止 80

 Windows 上でのアンインストー
 ル 71

 Windows 上での実行 62

 Windows 上での停止 68

L

Linux

 インターフェース・サービスの
 インストール 85

 Interoperation Server のインストー
 ル 88

 インターフェース・サービスの
 サーバーおよびブローカーの
 インストール 90

P

protocolhandler.exe 44

R

Rational DOORS

 インストールの種類 5

 起動 22

 クライアントのインストール 12

 Citrix へのインストール 43

 Linux への Interoperation Server の
 インストール 88

 Rational DOORS for Rational
 Quality Manager Interface 15

 Solaris への Interoperation Server
 のインストール 76

 Windows 上でのアンインストー
 ル 25

 Windows への Interoperation Server
 のインストール 56

- Rational DOORS 製品ファミリー
 - Rational DOORS 3
 - Rational DOORS Analyst Add On 4
 - Rational DOORS for ClearCase Interface 4
 - Rational DOORS for ClearQuest Interface 4
 - Rational DOORS for HP Quality Center Interface 4
 - Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface 5
 - Rational DOORS for Rational Rose Interface 5
 - Rational DOORS for Serena PVCS Version Manager Interface 5
 - Rational DOORS Web Access 3
 - Rational DOORS データベース・サーバー
 - Linux 上での起動 91
 - Linux 上での停止 92
 - Solaris 上での起動 79
 - Solaris 上での停止 80
 - Windows 上での起動 62
 - Windows 上での停止 68
 - Rational DOORS の起動 22
 - Rational DOORS for HP Quality Center Interface
 - アップグレード 97,106
 - Rational DOORS for Rational Quality Manager Interface 15
 - Rational DOORS Web Access サーバー
 - Linux 上での起動 95
 - Linux 上での停止 95
 - Solaris 上での起動 82
 - Solaris 上での停止 83
 - Windows 上での起動 70
 - Windows 上での停止 70
 - Rational DOORS Web Access ブローカー
 - Linux 上での起動 94
 - Linux 上での停止 94
 - Solaris 上での起動 82
 - Solaris 上での停止 82
 - Windows 上での起動 69
 - Windows 上での停止 69
 - RationalDOORS
 - Solaris へのインターフェース・サービスのサーバーとブローカーのインストール 78
 - UNIX 上でのデータベース・サーバーのインストール 47
 - 85, 53
 - RationalDOORS
 - Linux へのインターフェース・サービスのサーバーおよびブローカーのインストール 90
 - Solaris へのインターフェース・サービスのインストール 73
 - Windows 上でのデータベース・サーバーのインストール 9
 - Windows へのインターフェース・サービスのサーバーとブローカーのインストール 56
 - RationalRequirementsComposer
 - Linux 上での統合 85
 - Solaris 上での統合 73
 - Windows 上での統合 53
 - RedirectorService 66
- ## S
- server.xml
 - インターフェース・サービス・サーバーのポートの構成 63
 - HTTPS の構成 65

Solaris

- インターフェース・サービスの
サーバーおよびブローカーの
インストール 78
- インターフェース・サービスの
インストール 73
- Interoperation Server のインストー
ル 76

T

- tds_registered.txt 23
- tds_valid_id.txt 23

U

Universal Resource Name 57

UNIX

- Rational DOORS データベース・
サーバーのインストール 47
- UNIX上でのインストールとは？
47
- URN 57
- UUID 23

W**Windows**

- インターフェース・サービスの
インストール 53
- インターフェース・サービスの
サーバーおよびブローカーの
インストール 56
- Interoperation Server のインストー
ル 56
- Rational DOORS クライアントの
インストール 12
- Rational DOORS データベース・
サーバーのインストール 9

